塵冢

A90
443

塵冢巻一

印度文献

今の印度哲学に通せる学士は Garbe, Jacobi, Deussen 及 Ed. Byles Cowell なり。(初三家独、後一家英)

劫毘羅数論。

善見律の吏那は希臘の Ionia なり。

金七十論。(Samkhya-Karika)

不男、非男

不男は南史宋明帝不男とあり。魏書仇洛齊傳に仇と非男

鷗外藏書

東京帝國大學圖書之印

B 23475

0004320826

と云。人道不全なり。

勢峰

瑜伽師地論四十九、謂陰茎為勢峰。

拂郎

元陳基の文、王逢の詩、周伯温の近光集に拂朗あり。佛蘭西ならん。

阿

嚴如熤の苗防備覽に曰く。紅苗に命名男子、多以老、(中略)女子多以阿。

細居

東方朔書名細居、契宗字細君、又烏孫公主劉細君、新出漢印王細居。

容易

漢書東方朔傳、談何容易、何容猶言豈可也。

摩尼教

唐書、大食國之弗利剌河。(Euphrates)

漢書嬀水、隋書烏滸水、大唐西域記縛芻。(Kirghis語 Ak-su, 希語 Oxus)

安息、大夏、康居。(Parthia, Bactriana, Sogdiana)

唐所謂景教。(Nestorian 基督教)

祆教、拝火教。(Parsism, Zoroasterism)

摩尼教は景教より出でゝ、祆教を混ず。

後漢書茀菻。(Constantinople?)

欧米梵學の梗槩

千七百八十四年 W. Jones (甲谷他の法官、嘗て Oxford に学びて、東洋語学に通ず) 亜細亜学会を立つ。梵書を註し、摩奴法典を訳す。次いで独乙の Schlegel 兄弟梵書を訳刊す。次いで Bopp, Christ. Lassen, コオルブルウク、Wilkinson, Horace Hayman Wilson, 佛のビユルヌウフ、ビイテ出づ。Jones と同世なる佛のベロンは Upanischad を刊せり。(拉甸訳) コオルブルウクは吠陀を欧洲に伝へ、ヰルソン之を譯したり。Max

Cunningham は歴史地理を研究し、Hunter は風俗を調査す。Mill は印度史を作りぬ。

佛教は ホッヂソン 千八百二十一年尼波羅に駐剳し、法華、十地、金光明、無量寿経等を得たり。ビユルヌウフ 法華経を佛訳し、仏教史概論を草す。弟 ネフウコオ 西蔵文の普曜経を得て之を訳す。スライト 等も亦仏書を発見せり。西蔵佛教は匈牙利の チヨオマ 世に傳ふ。バアリ仏教は トルノル、ファウスベル の著あり。別に アラバスタア の暹羅佛教に於ける、フウト の蒙古仏教に於ける、アイテル、ビイル の支那仏教に於ける等あり。

支那仏書の研究は Jesuites に始まり、エドキン、ドグラス 等の通信あり。レミユウサア、ジユリエン 仏国記、西域記を訳し、（ビカンデエ 緬甸仏傳に之を称讃す）ジエエムス、プリンセップ は阿育王碑文を訳せり。

Max Müller の出版事業、維也納 ビユウレル の考古学、リスダビツ のパアリ文出版は近世の盛事なり。

獨乙の東洋学は Kiel に Deussen あり、伯林に H. Oldenberg あり、澳太利首都には G. Bühler あり、英には Rh. Davids、米にも亦ケエラス等あり。

魔

魔は「マアラ」なり。擾乱、障碍、破壊の義。法華経安楽行品に五陰魔、煩悩魔、死魔あり。煩悩を見惑思惑なり。瑜伽論八十二巻、佛地論七巻に四魔あり。上の三魔に加ふるに天魔を以てす。涅槃経には八魔あり。更に常楽我静の四顛倒を加ふ。又十魔は一欲魔、二憂愁魔、三飢渇魔、四愛魔、五睡魔、六毒魔、七怖思魔、八疑魔、九名利魔、十自高憍慢魔にして雑藏経に出づ。止観補行に、古翻経論は磨に作る、梁武以来魔と書すと云へり。

梵学参考書

1) Hermann Oldenberg, Geschichte des Buddhismus

2) Fr. Bopp, Vergleichende Grammatik, 3. Aufl. 1868-71, III.

3.) Heinrich Kern (Leyden) の書
4.) Gildemagel の書
5.) Panini 梵文典あり。
6.) Stenzler 同上、一八九二年二枚 (Adolf Friedr. Stenzler †1887 Breslau)
7.) Böhtlingk und Roth の字書 1853–75 VII, 79 ff.
8.) Lassen, Indische Alterthumskunde 2. Aufl., 1867–74 IV.
9.) Müller 2. Aufl. 1860.
Lectures on the science of language, deutsch 4. Aufl. 1891.
History of ancient Sanskrit literature, 2. Aufl. 1860.
Rigveda 1849–75 VI.

公案

公案の分類に二様あり。一は形式より目を立つ。機関、言詮、難到、難解、五位、十重禁是なり。二は内容より目を立つ。入証、真空、妙有、徹底大悟是なり。唯識の五重唯識法は此等と相似て相同じからず。

支那

唐玄宗の時烏荼国王漢訳華厳経を献ず。「上献摩訶支那大唐国大吉祥天子大自在獅子王中大王」の語あり。

銅活字

支那の銅活字は起原詳ならず。宣徳中盛に之を製せしことあり。後鋳て銭と為す。清朝に至りて龍飛内叢書寺銅印の書あり。大鳥圭介嘗て學んで製せしめ、成らず。

少室六門

少室者達磨面壁之處。五岳中岳嵩山三十六峰。少室東謂大室。西少室。相去十七里。少室高八百六十丈。少林寺在其北麓。後魏孝文帝建之。佛陀禪師開基。

六門者曰心經頌。曰破相論。曰二種入。曰安心法門。曰悟性論。曰血脈論。

頌者達磨所述也。破相者排斥名数事相也。二種入者曰

理入。曰行入。理入者不隨文教。與理冥符。行入者謂四行。報冤、隨緣、無所求、稱法是也。安心法門者即右洲無也。悟性者人々自性。本無迷悟也。血脈者以心傳心。血脈不斷也。

崑崙 須彌

崑崙は葱嶺なり、八迷(Pamir)なり。須彌とは岡底斯山なり。西藏西偏の阿里に存り。

佛典

佛書は東京市麻布區飯倉町五丁目四十四森江佐七の店に最多し。その目錄中より抄出す。

黄蘗板　四百五十円

縮刷　百円

唯識道論　十冊（九十五錢 郵二十八錢）

冠註倶舍論頌疏　十四冊（三四十五錢 郵三十二錢）

大乘起信論義記　三冊（三十五錢 八錢）

倶舍

偈今は頌疏より入るに若くは莫し。本論と末書とを得て始て解すべし。

迦毘羅

又劫比羅、Kapila 佛誕の地。Ganges 上流に在り。

罽賓

漢書に出づ。Kashmir なり。

亀茲

漢書に出づ。西域記の屈支なり。又庫車に作る。土耳機斯坦東部に在り。

内典字音

圜悟(エンゴ)○恁麼(インモ)○雪竇(セツテウ)○趙州(デウシウ)○揀擇(ケンジャク)○明白(メイハク)○夾山(カツサン)○衲(ナフ)僧○行脚(アンギャ)○擧(コ)○喞溜(シツリウ)○聖諦(タイ)○繋驢橛(キョ)(ケツ)○較(カウ)○懡㦬(モラ)○漆桶(ツウ)○複子(ス)○法堂(タウ)○錯(ジャク)○見解(ゲ)○眼耳(ゲンニ)○体相用(ユウ)○満口含霜(サウ)(霜粉也)○適来(セキ)○能所(ジョ)○極微(ゴクミ)○究竟(クキャウ)(究盡(グウ) Teleologie 基督教徒譯 云結句法)○斬(ゼン)○完全(ダン)○會麼(エスヤ)○鼻孔(ビ)○何似生(ジセイ)(何所似若)○拄杖(シュ)○臘後抜箭(五代史故事。従前抜出)○

○空生嵓畔花狼藉 空生彼云須菩提 ○舜若多 虚空神也
○動静(ジヤウ)○不闘(サヽヘズ)○斬(ニイ) 後虎云或是斬字、○休咎(カ)○一莖(キヤウ)
艸○兄弟(ヒンデイ)○説話(ワ)○心虚(イヅル)○灼然(シヤク)○謗他(ハウズ)○没交渉(キヤウ)
○分明(ミヤウ)○夏行(ゲギヤウ) 四月十五日至七月十五日(陰暦) 不個行、今有冬夏行、 ○輪囲(リンネ)○破魔(ハモ)
羅(ラ) 四魔也、障碍破壊之義、○
四魔、五蘊广、煩悩ー、病ー、天ー(波旬)○爍(シヤ)迦羅眼(ゲン) 堅固眼又金剛眼 ○
醯(ケイ)雞○作家(ケ)○猢猻(スカス)○睦州(ジウ)○掠虚頭(リヤツコトウ)○因(カ)○泊子(ホトンド)
○法幢(ドウ)○出水何如未出時、何如孰喫也○呪(シユ)○直行(ヂキギヤウ)○契當(カイ)
○等等(トウトウ)、相待也○韶陽(ゼウヤウ)○較(アタル)○羯諦(ギヤ)○菩提(ジ)娑(ソ)婆訶

○乾闥(シ)婆 闥婆(シ)也○可惜許(カシヤクコ)○鏡清(セウ)○毘耶離(ビ)菴(アン)羅樹園
○特(ジ)牛○聱訛(ガウ)○執寶炬(コ)○山相撃(ギヤク)○不休息(ク)○楖(シツ)
栗(リツ)○倂易起○板歯 流支三蔵折達磨歯 ○裰(シユク)着 磕(カフ)着○劫(コフ)
火(ク)○計較(ケキヤウ)○鎮州(ヂウ)

證道歌中

五陰（オン）五蘊也　三毒 貪嗔痴　自招抜舌　六度 六波羅蜜也　六趣 六道也

問覓（ミヤク）　剖析（ハウシヤク）　把捉（ソク）　六般神用 六神通

本生経

佛本生経（ジヤアタカ）も漢譯ありしが散佚す。西晋譯の佛説生経は猶存す。梵書にては本生鬘経（ジヤアタカマアラ）、嘉訓（ヒトウパデエシヤ）、五巻鈔（パンチヤタントラ）あり。並に俗語なり。洋書中の禽獣に関する話も多くこれに本づく。

永平元禅師清規

○典座教訓。道元撰。

△典座。掌衆僧之辨食。 △打食。支度。 △淘米。ーー泉。

△飯盤。台。 △飯桶。又飯盤 △汁桶。 △箸梜。又云梜提。 △柄杓。梧杓。 △物料調辨。 △水架。莫離ーー邊。 △飯籮。 △檯槃。載桶。 △火客。焚夫。 △蒲菜羹。賤。 頭乳羹。貴。

○辨道法。大佛寺。

△鳴板。△臥必右脇而睡。「瑜伽論云。獅子王臥法。」敎誡律儀戴之。△赴後架而
洗面。後架者洗面架也。△不得搪揬衆家。搪徒郎切。音唐。
揬陀骨切。音突。搪揬觸犯也。△手巾。「帨巾也。」△楊枝。「又歯木。」嚼一一。踈齒刮舌。
△面桶。手盤也。以洗面。△拭面。△抱疊被服。△摺被。△眠
單。△枕子。「日本ノ木枕、支那ノ枕嚢、休橋ノ枕ハ便ニ手行脚ニ。」△函櫃。△展單蓋被。△拖一鞋也 鞋作声。
△火鈑。今日雲板。報飯熟。△結跏趺坐。先以右足。安左
脛上。次以左足。安右脛上。或者半跏趺坐亦可。但以
左足壓右足而已。△放參。△行李同行僧。

○赴粥飯法。永平寺。△墾植収穫舂磨淘汰炊
△臂莫教築一著於脇下。△両手托鉢。不得太高太
低。△盂盂ノ複帕。△頭鑽。「楚云鐼子、又揵茨、訳云中鉄鉢、一作建鎡、又云浅鉄鉢」汁器也。「俗云什器。」浅鉄鉢也。△展鉢 △鉢
單。△匙筋代袋。袋中有匙有筋。又有鉢刷。△浄巾。展浄巾以
蓋膝 「又蓋膝巾、又膝巾」△粥有十利。色。「顔一」力。「氣一」壽。樂。詞清辯。宿食除。風除。「一邪」
飢消。渇消。大小便調適。△三徳六味。軽軟。浄潔。如法作。
(徳) 苦。醋。甘。辛。鹹。淡。△行食給仕也。行盈。△舁桶。「両人共舁」

△受食捧盞。不申盞乞索。応量。以手遮之。不自抜取。△鉢
揲鉢支。△出生。初穂也。供鬼子母之子也。出于毘奈耶雑事三十巻。又曰
供曠野鬼也。出于北本涅槃経十六。△留受觸。留伊鳥切遙上声。抱
使注此也。ヨソウ。ツグ。△擎盞盂而近口。不将口就鉢。△搏飯右
手ーー而食。不用匙筋。印度古俗也。△把鉢放鉢拾筋不作声。
△不得遺落（鬼神物）飯食之。△不歠作声。△不将汁淘飯。△不
大銜蔵噂。ホウバン △不抓頭堕風屑于盞。△挑牙掩口。

△不弾舌嚼喫。不吹気熱食。不吁気冷食。△飯中有
未脱穀粒。以手去穀。△不刮鉢作声。△莫損鉢光。
△洗鉢。△鉢拭（手巾）△渡過水衝洗。△盞槖 茶托子也。初于蜀相崔寧之女。

○吉祥山永平寺衆寮清規（越前国吉田郡志比荘吉祥山ーー）

△寮中不可高声読経吟咏喧動清衆。又不可揚励声而
誦咒。△不可接入賓客而相見笑談。△不可聚頭談話。
△不可到他人之案頭而顧視他人看読。△不可挨話世間（無義語）

事名利国土之治乱供衆之麁細。「無益語」「雜和語」「無慚愧語」「含」△不可乱威儀。△

落失物(オトシモノ)又遺落物。拏拾遺偈。△把鍼。有一架。△處世之業。

○對大己(長しん)(自己より)五夏闍梨法

△示耶脚倚立

○日本國越前永平寺知事清規

△知事。難陀曾為一一。一一於寺中検校。掃地灑水。開門戸。仁ハ指他語。(以上賠蔵経)

「六知事。一都寺。二監寺。三副司。四維那。五典座。六直歳是也。」

六知事

△都寺(ツウス)。都鑒寺。古有監院。後及寺大。置之總衆務也。

△監寺(カンス)。監収。監院。住持代理。

△副司(フウス)。庫務課長。

△維那(イノ)。此云悦衆。維綱也。那ハ梵語摩多也。梵漢兼挙。(寄帰傳)

△典座(テンゾ)。典炊九事。(略之) 食事之長。

△直歳(シッスイ)。「古直一年之務。故名。」修座巡門。

△小頭首

堂主頭(ジュ)。

般若頭。

寮首座。「又寮元。」学寮之長也。供頭。

堂行(ドウアン)又堂司。在維那下。令鳴磬。学事之長也。

華嚴頭。　庫頭。（今ノ櫃頭。）

典座之下
火頭。
飯頭。（看量在下。）　菜頭。
米頭。
粥頭。
醬頭。
磨頭。（又磨司。磨院。碓米磨麪之処。）
園頭。
炭頭。
灯頭。
水頭。

莊主。――並收。
街坊化主。
淨頭。淨厠也。
△顒々然。敬仰皃。　△槩ト慨同。慷慨詔諷皃。　△饘方来。四方来客。
△對待。纔――。　△包當。主管也。　△拋撒。狼藉皃。
△禪苑清規。宋慈覺大師宗賾和尚撰。十卷。三册。
△五更。

晝	朝	禺中	晡	夕	
夜	甲夜	乙―	丙―	丁―	戊―
	一鼓	二―	三―	四―	五―
	一更	二―	三―	四―	五―

△粥時齋時。粥時ハ手掌ノ印文分明ナル時也。齋時ハ從二日中半一至二天中日午時一。

△六長頭首。

△首座。坐禪堂之長。
△書記。
△知客。
△知殿。
△知浴。
△直歳。

△藏主。

△堂頭侍者五人

△燒香　代住持燒香
△書状　調度住持往復書
△請客　應接賓客
△衣鉢　掌住持衣鉢茶果
△湯藥　供住持飲食

外侍　内侍

△古司衆寮職務者五人。

△寮元。今ノ寮首座。
△寮長。
△寮主。
△副寮。
△望寮。

△牛呞。楞嚴經云、輕二弄沙門一、有牛呞病。

△五辛。大蒜。又葫。韮蒜。又茖葱、又薤、又山葱、又野葱。葱蒜。蘭葱。又蘘荷。種貫切音箕。又山蒜、加賀云山蒜。上蒜、大和曰大峯蒜、又曰行者蒜、

興渠。出于梵網經。一阿魏也、又云圖臺、梵語正言ニ形具ト。

△檀越。陀那鉢底、云施主。　△善請。集衆作齋、云——。（僧史略）

△木楔。木復也。　△坐具。尼師但那、云坐具、又敷具。

△巴鼻。巴ハ尾也、鼻ハ始也、終始之義、又馬靶ハ施之馬面、又來由之義。

寶慶記

宝慶は宋の年号なり。元年永陽大師道元初めて天童古佛に妙高臺に謁せり。寛延三年二月五日若州永福菴主瑞方面山の序あり。

見（眼）聞（耳鼻）覺（舌身）知（意）

未得謂得。未證謂證。

不撥無因果。

能禮所禮性空寂。感應道交難思議。

腰條皆強緊結之。
緩步以息為限。而運步也。
参禪者身心脫落也。
五蓋。貪欲、瞋恚、睡眠、悼悔、疑、加無明為六 五欲。財、色、飲食、名、睡眠
廣略俱尽道理也。
一息半趺之法。移步不過半趺之量。移足必一息之間也。起於坐禪時如是。
不可在當風之処。而坐禪。
臥必右脇而膳
烏瑟膩沙。此云高頂、所謂頂相者是也。

禪院、教院、律院、徒ツチ弟院。
著味、邪見、憍慢。
南階東西有師子形。
坐禪時舌拄上齶。或括當門板齒亦得。開眼目坐禪亦無妨。
須正身端坐。莫倚物。
右廻。先移右足。起於坐禪時如是。
安心於左掌之上。
建長五年十二月十日寫。
著衣叔袒。袒衣者隠。卸肩上衣也。
震旦。又支那、又真丹、翻思惟、国人多

所思惟。
自然。又法爾。不因行行。無因無縁也。我我所。我仮名。我所五陰。
或五陰外立我、我所為五陰、又五陰中之一、為我、三止三観 見思惑、塵沙、無
明、不著味。不味不著、捨離染心、不知已矣。

香奥

あゆは香奥最近し。香魚一名記月魚、出甌江逸志。

粒々辛苦

聶夷中詩曰、鋤禾日当午、汗滴禾下土、誰知盤中飡、
粒々皆辛苦。

支那の英商

Hongs system 商館組織、Comparable system 買辦
組織。

地動説

博物志有地動説云、地常動不止、譬如人在舟而坐、舟行而人不覺。

贔　屓

贔平秘切、屓虚器切、龜屬、能負重、碑下象形、轉作力皃、巨靈贔屓、韓蔡同贔屓。

讖

司馬光叙劉安世、以讖字。

反故

反故一作反火、出南史沈麟傳。

釜柯峡

豐前国深瀬谷ち柿坂より入る。明治二十三年舊森藩山奉行瀬口正澄の開くところにして、二十五年始て成る。修して釜柯峡とす。又新耶馬溪の称あり。

Somatose.

Somatose N 13/0.

Perucognac.

Perubalsam 50g. Cognac 1 Liter 大人一食匙づゝ毎二時ニ服む。純服又牛乳と水とを混じて服するも可なり。先づ牛乳と卵とを食ひて後服するを快とす。肺病ニ効あり。(Dr. Schmey)

軍服袖紐の孔

式ニ云く。 $N = 2m(2n-1)^2$

Nは左右孔数 mは毎袖縦数 nは毎袖條数なり。

小倉娼婦

旭町(小倉)と門司との比較左の如し。

	小倉	門司
娼妓	一二七	一二二
藝妓	一四〇	七〇

軍人の旭町にゆくもの毎月六百人あり。

北方の密賣婬店は左の如し。

酒店	一二	菓子店	一
(兩)婦	二(三)	氷店	一
梳店	三		

どんかち

石垣どんかち面出すな面出しや捕らるゝ、らぬが損たい。

周翰

豊後日田の薮幡家中一等品と称するものに周翰、雷化龍あり。

周翰の名明史にありや否検すべし。

筑後の文献

南筑明覧　筑紫之熱血

石人

這犬塚より久留米に向ひて行くこと一里にして一條村あり。石人猶存せり。

安徳陵

肥後国天王山に安徳天皇陵と称するものあり。

今宿

元寇の来り襲ひしは今宿湾なりしならんといふものあり。

宋盛年——

福岡に住めり。春秋左氏傳に精通せりといふ。

卑屑妓、窯子、包艇、吃烟

清俗の言に卑屑妓といふは賤娼なり。窯子も娼なり。包艇は舟中の賤娼なり。吃烟とは交接を謂ふ。

小倉附近の奥地

或人のいはく。小倉より奥ぶかき地は湾に小瀬戸あり菌類に香椎あるのみ。

好酒

尼崎の三影宗花は宮中に用ゐさせ給ふ酒なり。

京の割烹店

京の割烹店に瓢亭平野屋好しといふ。

大隈言道

福岡の人なり。草径集三巻あり。

三国地誌

三国地誌といふ書ありて伊勢等三国の事を載すといふ。

日向私史

日向私史とりふ書は平部良輔撰むとりふ。

帆足萬里の傳統

帆足文簡 ― 米良文精 ― 帆足文定 ― 中村文倹

方言

ばい（はか）　たい（ばいより不定の意あり）

ばつてん（はとても也）　わくど（蛙）

うしわくど（ひき）　だごあん（痴人）

すねふる（強く）　た（がたー　―（恥かし又不敢の義）

たご（手竹籠か桶なり）　むさー　―（耐久なり）

ひさし（久なり古言）　たぐり（咳嗽）

てうせんまめ（落花生）

豊前地志

高田某書を著して豊前の事を述ぶ。五巻あり。題号を忘る。佐野常彦とりふ醫も亦嘗て企救志を作らんと欲して果さず。近ごろ小澤武雄も亦豊前志を作ら

んが為めに材料を蒐集したり。

紫川

豊前国紫川の古名は加茂川なり。

篠崎神社古文書

小倉篠崎八幡宮の古文書中に賀嘉の年号あり。

児童の悪戯

内のお父さんはい一つと唱へ一群児がはるくはい二つはい三つといひてはい十まで至るはいとは白馬なり

小倉の人力車

小倉の人力車には蔽膝なし。車坐の下なる木腔甚だ狭し。

傳使

小倉の使丁あり。鐸を鳴して往く。之を便四銭とも。一説に此制土佐国に出づといふ。現に土陽便利組と称する組合あり。熊本にも嘗て一たびこれを設けしに今は廃せりといふ。

摘髪

小倉にては髪を斬るを摘むといふ。招牌に摘髪所と書す。

薩摩見聞記

薩摩見聞記、東京神田區通新石町三番地東陽堂板行。

小倉の魚商

漁村の婦人籠に盛り頭に戴いて来る。

廢城考

深川彪著廢城考。

日本工業史

横井時冬著日本工業史、吉川半七板。

美術雑誌

Zeitschrift für bildende Kunst (Wien); Repertorium für Kunstwissenschaft (Wien); Kunst für Alle (Leipzig).

思草

万葉集古義品物解、尾花本ニ思艸の解説あり。

小倉の傭銭

小倉の宮御ニて草とり人夫を傭ふニ一日五十銭なり。

馬蹄薬

馬蹄腐臭なるときは清く洗ひ、左方ニ従ひて治す。方ニ曰く、

醋酸鉛一五、〇硫酸亜鉛七、〇硫酸銅七、〇木醋一〇〇、〇右

混和溶用振盪浸綿塗布。

鳳仙

鳳仙はImpatiens Balsamina L., Noli tangere, Touch-me-not, Snap-weed なり。その實の觸るれば即ち跳ぶより得たる名なるべし。筑後の児女花を採りて爪を染め、依りてつまぐれと名づく。つまくれなゐの略ならん。人の怒り易きをばつまくれの種のやうなる人と呼ぶなり。

石蒜

石蒜、したまがり、まんじゅしゃげ、てんがいばな、えんこうばななど *Lycoris radiata* Herb., Amaryllidaceae なり。右二條宮川澳男に向ひてしるす。

鑛物學字彙

丸善書店の賣るところなりしに、今問へば無しといふ。有用の書の再版なきは惜むべし。

園花二三

Petunia violacea Lindl. (Solan.) つくばねあさがほ、土鉢などに植えて賣る。

Zinnia elegans L. (Comp.) 百日草。

Gaillardia pulchella Foug. (Comp.) 天人菊、金盞花の如くにして紅心黄緣の花を開く。

のうぜんはれんは *Nasturtium* に屬するや。

船載佛書並藝術上新著

丸善株式會社書籍店（東京日本橋區通三丁目）の所有。

P. Leroy-Beaulieu, La Rénovation de l'Asie. Sibérie-Chine-Japon. 1.80

J. Martin, Nos Auteurs et Compositeurs Dramatiques. 1.75

—, Nos Peintres et Sculpteurs, Graveurs, Dessinateurs. 1.25

—, Nos Académiciens Académie Française. .75

—, Nos Artistes. 1.25

Louis Gonse, L'Art japonais. 2.00

Catalogue illustré du Salon de 1899. Vol. 2. 3.50

Royal Academy pictures 1900 (Supplement of "The Magazin of art") 3.75

震旦

宋時雲南に南詔国あり。天下を震旦と云ひ、白王帝を驃信と曰ひき。震旦即支那なり。玉渓編事に見えたり。

竹王

嵎鎔鐵志及濵黔紀遊に竹王の事あり。其竹節より生

こは竹取の話の如く、竹王も桃太郎に似たり。

Mammuth

神異経に氷下大鼠と称す。

鰉

ひがいと訓す。瀬田川産する所の魚なり。聖上の嗜み食し給ふ者と云ふ。

軍事新著

Von Oven, Tactische Ausbildung der Sanitätsoffiziere. 1 m 50

Les blessures par harnachement. 2 Fr. 00 (Paris, Lav.)

Huguet, Recherches sur les maladies simulées et mutilations volontaires observées de 1859 à 1896. Paris, Lavauzelle. 7.50

Haller-Rothenaicher, Handbuch für freiwillige Sanitätscolonnen. 2 m 50

Immanuel, Einführung in die Felddienstordnung

vom 1. Jan. 1900. 1.50

Schöfer, Leitfaden der Militaerhygiene fuer den Unterricht der Einjaehrig-Freiwilligen Aerzte. 2.50

Manuel équestre à l'usage des officiers d'infanterie. Paris, H. Charles Lavauzelle. 2.00

Le duel et l'escrime dans l'armée en France et à l'étranger. Les tribunaux d'honneur. Paris, Pedone. 3.00

C. v. B.-K, Friedens- und Kriegsmoral der Heere am Ausgange des 19ten Jahrhunderts. Wilhelm Braumüller, Wien und Leipzig. Mark 3.60

Ferd. Neuwirth, Grundsätze der Kriegsführung und Trugschlüsse. .80 Verlag wie oben.

M. L. Pogio, Korea. 4.00 " " "

M. Hauptmann, Sibirien und die grosse sibirische Eisenbahn. M 4.

Richard Kleen, Lois et usages de la Neutralité. Chevalier-Marescqet Cie Fr. 25

C. Rothschild, Notre ami le cheval.

Constantin Danilewsky, Ein lenkbarer Flugapparat. M. 2.50

圓米

元史鐵哥傳の圓米は御膳米なり。舂いて砕くるものを去り、擇みて完きものを取る。故に圓と云ふか。

Manceau, Armées étrangères, essais de psychologie militaire. Paris, Fasquelle. fcs. 3,50

Bass, Mittel und Wege zur Schaffung und Erhaltung eines entsprechenden Sanitätshilfspersonals für die Militärsanitätsanstalten und die Truppen im Frieden und Kriege. M. 3,20

Funk, Der Sanitätshund.

露音

カザアキなり、カザツクは非ず。ツアアルなり、ザアルは非ず。ザバイかんなり、ザバイカルは非ず。

もうせん苔

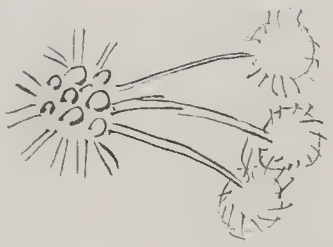
もうせん苔 Drosera rotundifolia L.（茅膏菜科）は葉に捕蟲機を備ふ。宮川ゆ見山と霧岳にゆきて獲たりとて示し給ふ。おなじ時蘭科の Cypripedium 屬の

Kowalk, Militärärztlicher Dienstunterricht für einjährig-freiwillige Ärzte und Unterärzte, sowie für Sanitätsoffiziere des Beurlaubtenstandes. M. 6,60.

R. Zander, Die Leibesübung und ihre Bedeutung für die Gesundheit. 0,90.

一種とおぼしきものを採り来たりけり。雖今若干なや
数盈艸なや。

水葵



ようせん苔

或云。水葵は古今あり。古のは茆之鳧葵即蓴菜なり。今のは所謂淺黄水葵（地錦抄水草類）なり。或云。水葵は雨久花なり。或云。水葱(なぎ)即鳧茈と混ずべからず。

軍隊の患者

尋常入院患者数に一、二を乗ずれば休業患者数を得べし。同数よりやゝ大いなるなり。

台湾死者

明治三十二年内地兵の死数四、一二‰台湾は三八、八八‰内地兵の病死数三、四九‰台湾は三七、二五‰なりき。第十二師団より派遣せしものは、其死数小倉二三、三五‰福岡五〇、〇五‰久留米二三、三三‰なりき。

未來戦

全損失中即死二五%重傷一五%輕傷六%なるべしと云ふ

路程

徒歩一時間五吉米、騎速歩一吉米六分。

人馬行

人の一歩〇、七五米にして、一分間百十五歩即八十六米とすれば、一時間五千百六十米を行くべし。馬の一歩一米にして、一分間九十歩とすれば、一時間五千四百米を行くべし。

徴兵検査

第十二師管の實驗上一日百四十人を検す。手續書（法規）に徴するに一日（五時間）百七十人（乃至百九十人）となせり。其最小限は毎所検者一分四十五秒、最大限は一分三十四秒を費す。

きゝのおよび

豊前の人の詞にきゝのおよびといふことあり。佛の intendu dire 獨の hoeren sagen に同じ義にして、古雅賞すべし。

育兵

獨逸の新兵は十月初旬入營す。十五至十七週にて第一期教育畢る。此より中隊教練あり、次いで大隊教練あり、秋季演習に至りて大成す。

歩兵戦は千五百米（敵前）にて一小隊を放出す。所謂捜索なり。選抜兵より成る。現用銃の彈丸は此距離に於いて能く三人を貫く。八百米にして散兵となる。是れ銃の命中の處なり。六百至四百米にして兵は射撃決勝距離に在り。大

抵此より着劍す。敵動けば（演習時損傷旗立つ）立姿ともに突進す。預備隊は襲歩して進す。此時鼓あれば鼓うつ。喇叭は素と襲歩の命令を吹奏するものにして、これを複奏するは好ましからず。

演習の制裁は一、審判官の制裁 二、自家の制裁 三、彼我協議の制裁あり。

給養

甲 獨逸陸軍

一、舍主　個人たる舍主の食卓に就く。不足時には市町村長調達す。未戰地及廣濶舍營に用ゐらる。墺国にて市町村負担して、個人に責なし。

二、携行糧秣

- 糧食車及蒭秣車　彼は二馬五〇〇吉瓦を載き、此は四馬一〇〇〇吉瓦を載く。常の所謂携行糧秣給養は此に仰ぐ。
- 糧食縱列及車廠縱列　糧食車蒭秣

車携帯粮秣を補充す。応急時之より支給す。

- 携帯粮秣　給養鉄道時に用ゐらる。

三、直接徴発　宿営市町村及其他の市町村よりす。已戦地にては地方衙若くは名望家をして参せしむ。

四、倉庫　携行糧秣を補充す。休戦時に給養を此に仰ぐ。

- 購買
- 官憲徴発　滞陣時に宿営外地方よりす。

乙、日本陸軍

一、宿舎給養　舎主之を給す。不足時は町村長弁ず。就卓の名文なし。

二、倉庫給養　携帯行粮秣を補充す。永駐時に給養に供す。

三、携帯行糧秣

- 大行李　一日分。命令に依る。又指揮官の責を負ひて用ゐるに依る。
- 縦列　四日分。大行李を補充す。

一　携帯口糧及馬糧　二日分。命令ニ依ル

四　徴発給養
- 直接徴発
- 官憲徴発　直ニ給養ニ資ス。

衛生隊演習季節

- 十二月・一月・二月 ── 擔架卒末卒業
- 三月・四月・五月 ── 第一及第二教育期、第一補充兵在営
- 六月上旬・仝中旬・仝下旬・七月上旬 ── 降雨期並挿秧期
- 七月中旬・七月下旬・八月・九月上旬 ── 暑
- 仝中旬・仝下旬・十月上旬 ── 検閲
- 仝中旬 ── 平年
- 仝下旬 ── 平年機動演習
- 十一月上旬 ── 十月機動演習アリテ三年兵十月末日帰休ノ年
- 仝中旬・仝下旬 ── 新兵教育豫修

其圖ハ適応時期也

速射砲

我有阪式速射砲 Canon à tir rapide は最大射距離野砲にて六三〇〇米、山砲にて四二〇〇米とす。其榴霰(シュラプネル)弾は毎弾に丸子二三四粒を藏す。各丸子の重一〇、七瓦 直径一〇密米。殺傷力は素と人に於ては八基瓦米、馬に於いては十九基瓦米を要するものなるが、此砲にては一八四米存速の時此殺傷力あり。猶これに丸子の速度七五米を加ふべし。此弾は破片を生ずること

なし。破裂距離（弾より目的物までの水平線）は五〇至一〇〇米たらしむ。而して山砲は一米平方に一丸子を落すべく、其砲はこれより疎なり。一弾の丸子の散布すべき面は、山砲にて幅一五米、野砲にて二二米、深さは一〇〇至三〇〇米なり。此砲には霰弾(ミトラリ)なし。榴散弾をして早く散ぜしむればなり。榴弾(グルナアド)は黄色薬(メリニット)を装す。建造物を破壊するに用ゐるのみ。

渡邊章の談

動員時應召員の宿舎は市街を距ること遠きを利とす。是れ来訪者少きが為めなり。

帽は裏書すべし。

記名木牌を作るべし。随身品に結び付けん為めなり。

中隊余裕品あるときは補充隊に引継ぐべし。

駄馬に口網(むくち)を付くるときは相咬まず、夜鳴かず。

下士卒の携ふべき水盃を名古屋に出づる紙撚漆塗の品好し。

國旗を縫付けたる日章より染抜きたるが好し。西京製なり。外国旗も兵教育上必要なり。

馬の悪しきあり、輪卒の馬を扱ふことを知らざるあり。

舟に携ふる三食を製法と舟中の置場とに注意すべし。

舟中配食は兵と馬卒輪卒と傳票を分つべし。否ざるときは、馬卒輪卒は食を得ずして已む

着港前舟中の風紀に注意すべし。

夏舟中の馬斃るゝことあり。救急法功を奏す。

着港時先を争ひて艀を呼ぶときは、下士卒の軍紀を紊る端緒を生ず。

支那人を罵ること勿れ。

暑中陸に上るときは一夜安眠すべし。露營と雖可なり。直ちに行進するものは多く病む。

歩兵携帯器具は日々負担者を代ふべし。

暑中行軍には時々帽を脱して頭を拭はしむべし。

在外中日々患者表を作らしめて比較するものあり。寧ろ日々衛生上に命令する所あるを可とせん。

国際法上の智識あるものにあらでは、取る可きを取らん又取らざるべきを取る。取る可きを取らざるときは、後他隊に乞ふに至る。

増減名簿は後送のために必要なり。

開進の時後尾の部隊在りて絶ひて去らしめ、病に至ることあり。

森林(黍圃と同じ)の戦には連絡を失ひ易し。森林と市街との斥候を継々退路を断たる。

負傷を忍びて、将校直ちに其死去と断ずることあり。軍医の診を待たざるが故に誤謬を生ず。

軍医の人名記注は認識票に拠るべし。帽に拠るものは、集合の時交換したるものありて誤を致す。衣と共往々然り。

兵卒をして病院取扱の方法を諭ぜしむるに至ること勿れ。

雪中行軍

一、眼簾を垂るべし。金属眼鏡は紙又布にて縁を纏ふべし。

二、雪窟を作りて舎すべし。天井被覆物には穴を穿つべし。燃料は炭好し。薪は目疾をなす。

三、橇は用ゐるに足る。然れども大に担架に優るに非ず。

Magnalium

Ludwig Mach 剏製す。Aluminium 中三乃至三〇%の Magnesium を含む。異重二、三〇乃至二、五〇なり。（Aluminium は二、五六乃至二、六七、Magnesium は一、七四）Aluminium より固くして、又伸長し易からず。價貴し。

哲学上二三の譯語

Ratio　理性

Voluntas (Wille)　情性

autonom - heteronom　自律、他律

避撑国

避撑国又楔子国は l'état tampon, buffer state の譯語なり。

木氷

春秋曰、雨木氷

黄犂洲に木冰の記あり。樹枝の冰なり。水沫記嘗て之れにあり。曾鞏（宋）楊愼（明）霧淞詩あり。木冰の類か。

輕

倍爾師と談話中偶々言ふ Kyrene 派の ἡδονή は唯識の輕（キヤウ）ならんか。

Ho-lie

台蕃の皮疾なり。或云癜風 Pityriasis versicolor の類ならんと。

背囊

背囊の重目は中容廿二貫五百匁目なり。

繫腰

繫腰、俗にあくと、けぎれと云ふ。水疱（急性湿疹）疣疱（慢性湿疹）等なり。

百思土菌を染むる法

一、Methylenblau ca 2%
二、Eosin 1% 水溶
三、結晶炭酸曹達 5%

甲、一の一〇立仙に蒸餾水一〇〇立仙を加へ三の三十滴を下す。

甲の一〇立仙に Burette に盛れる二を加へて粉様沈澱を生ずるに至り、以て飽和の度を知る。

乙、甲に二を加へて、未だ飽和せざるを度とす。是を染料とす。

西覆硝子標本は先づ純酒精に浸すこと十五分、次に染料に浸すこと七分、次に太蒲醋液(氷醋)にて洗ひ、水にて洗ひ、抜爾撒謨中に藏す。

二三の語

自縛自解○外幕、外膠○檻、烏昆切、杉也○杠、居郎切、旃竿也、橋也、床前横木也、地名、水名、星名、肥後有杠氏、ゆづりは

音の高低

Sopran 高
Alt 中
Tenor 次中
Bass 低

名目論

名目論は翺翔生といふ人のNominalismusを譯してしかいふ。

九州の歌人

本居豊頴話に、坂本、池原、木下などあり。木下は香椎の神官なり。小倉には河江あり。すぐれたり。騎兵少尉德田武雄和歌にこゝろざせり。されど猶初歩なり。

提撕

宋時榜下提撕の俗あり。繫提錢を以てす。萍洲可談に見えたり。

粥

多く粥を煮るときは、十分に米を淘洗すべし。少しく煮るときは先づ軽くとぎて水をきり、次に強くとぎて水をなじ火に上す。然らざるときは全く粘りを失ふ。倍娣師の話なり。

少佐角

鬢毛脱せるを謂ふ。原語 *Majorsecke.*

夜戦

魯軍夜行夜戦法中に曰はく。夜戦に輜重なし。唯だ豫備隊に看護手ありて、担架を持ち、提灯を携ふ。灯を用ゐ臨みて點火す。

防障

六百歩よりして小銃弾を防ぐには、土は三十五仙米以上、木は径五十仙米以上。

女大學

女大學は貝原益軒の妻江崎氏、名は初、字は得生、號を東軒の作る所なるに似たり。巽軒云ふ。

沙羅双樹

सरल, m. *Saralbaum.*

सरलद्रव, m. *Saralharz.*

द्रव, m. *Saft (drava).*

右宮川漁男の問に答ふ。

論衡中の句

才高行潔。不可保以必貴。○摧衡折軛。毀車也。○志合趨舛。○形佳骨嫺。皮媚色稱。○以夏進爐。以冬奏扇。○倉猝之業。須臾之名。○脩身正行。不能來福。○青蠅所汙。常在練素。○死灰百斛。人不沃者光滅也。○所當觸值之命。兵燒壓溺。○小人行險以徼幸。○蟲墮鼠渉。汚食也。○正命。先天。隨命。後天。力而致之。○起宅蓋屋。○自紀。自傳也。○瀛海大海。裨海小海。○鄒衍。○佳好。

虚偽

牝鶏の雛を呼ぶに、之をして塒に上らしめんと欲する時、猶地を掻いて餌を獲たる状を為す。是れ虚偽の始なり。後雄鶏の芥を啄みて牝を呼ぶは同一方便に従ふなり。蓋し本能上早く既に虚偽あるなり。

利己

雛鶏纔に生れて蟲を啄み、群を離れ去り遊ぶ。利己なり。

啐啄（ソツタク）

一客ありて曰く。啐啄の説非なり。雛は殻中より啄り自ら

之を破る。西洋泰縮書の説く所の如し。

評書

谿穀千鍾糠皮太半の語論衡に見えたり。

醤油

銚子田中玄蕃製を田印と云ひ、野田茂木佐平治製を亀甲萬といふ。皆逸品なり。又龍野に好醤油あり。

鶴林玉露中の語

敵精神於瑣々。以自殞其軀。○蟲沙。小人也○握攬鬪湊。飣餖百出也。○鴟行烟自如。少陵句也。○帖妥。○元〔阮〕方為圓。杜節也。○轉丸鳴鏑。處事也。

宮川漁男の花臘中 二三

Achyrium nigri pes Mre., Polypodiaceae ヤマイヌワラビ。園苔中ニ生ズル蕨様ノ植物是也。

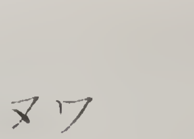
Cassia sp., Leguminosae ハブ草。

Polygonum orientale var. *pilosum* Meisn., Polygonaceae オホケタデ。葒草。(園ニ栽ラル蓼ニシテ丈高シ)

Celosia cristata L., Amarantaceae 鶏冠。

Ranuncula acer 毛茛

Andromeda japonica Thunb. アセビ。アセボ。梫木, Ericaceae.

Atractylis ovata Thunb., Compositae 蒼朮。ヲケラ。 

Lindera sericea Bl., Lauraceae 黒文字。以為牙杖。

Marsilia quadrifolia L., Marsiliaceae デンジ草。
蘋。

Laminum album L., Labiatae オドリコサウ。野芝麻

(小児花中ノ蜜ヲ吸フ)

Torreya nucifera S. et Z., Taxaceae 榧 (モミハ葉相似ス
テ尖合ナリ)

Cydollia japonica Pers., Rosaceae ボケ

Cleome pungens, Capparidaceae オイランサウ (?)

Calendula arvensis L., Comp. 金盞花

Polygonum Thunbergii, Polyg. ミゾソバ (花葉蕎麦ニ似ス
テ路傍ニ生ズ。

Rhododendron indicum, Ericaceae 杜鵑花

Magnolia obovata Thunb. 木蘭 }
Magnolia Kobus D.C. 辛夷。花ナシ } Magnoliaceae

Forsythia suspensa Vahl 連翹, Oleaceae

Petunia violacea Lindl., Solanaceae
筑波根草

Aucuba japonica Thunb., Cornaceae アヲキ

Fritillaria verticillata Willd. var. Thunb. Bak., Liliaceae 貝母。

Pyrethrum roseum, Comp. 赤虫除菊。

Capsella Bursa Pastoris Mönch., Cruciferae 薺。ペンペン草。

Adonis davurica, Ranunculaceae フクジュ草。側金盞花

Nymphaea tetragona, Nymphaceae ヒツジ草。睡蓮。

Gnaphalium multiceps Wall., Comp. ハコクサ。鼠麹。(トノサマヨモギ)

Astragalus sinicus L., Legumin. 紫雲英。

Eupatorium chinense L., Comp. フヂバカマ。

Myosotis sp., Borraginaceae, Vergissmeinnicht.

薬事二三

薬局方の新たなるものは、魯西亜第四板一八九七年、英吉利第四板一八九八年、獨逸第四板一九〇〇年の三を主とす。日本のは一八八六年の第一板あり、其二回の追加を経たり。今(明治三十四年)第二板の稿を脱すと云ふ。

薬品を収むること甚多きは佛蘭西なり。二〇三九種に及ぶ。我國のごときは四六六種のみ

Acidum gallicum

Acidum lacticum [illegible]

Codeïnum phosphoricum: Codeïn = Methylmorphin.

Dermatol = Bismuthum subgallicum: Jodoform-surrogat.

Diuretinum = Theobrominum natriosalicylicum.

Cascarasagrada: R. Rhamnus-Arten 鼠李族。皮。 Abführmittel.

Condurango: Gonolobus-Art。白前族。皮。Magenmittel.

Hydrastis canadensis: Ranunculaceae. 毛茛科。 Haemostaticum (innerlich).

Phytolacca. 商陸

Heroinum hydrochloratum; Schlafmittel. (Heroinum = Diacetylmorphin)

Phenacetinum: Antipyreticum, schmerzstillendes Mittel. 白晶
[= Paraacetphenetidin]

Formalin = Formol = Formaldehyd水。飽和量 40%. 葡萄酒防腐 0,05‰ Aldehyd; 鹽结 0,1‰ Aldehyd.

Creosotum. 製於山毛欅乾餾液。有三 Phenole: Guajacol 60–90%, Cresol, Creosol.

Creosotum carbonicum. 白液。亦複体。

Guajacolum = Monomethylbrenzcatechin. 白液。P. s. 1,117 (Creosot 1,07); 200–205°C 餾去 (Creosot 200–210°C.)

G. carbonicum. 白晶 91,5% G.

Hydrargyrum salicylicum.

Ichthyolium = Ammonium sulfoichthyolicum. Tyrol 山石干餾液。恐是古代動物体。褐色粘稠。

Lanolinum = Adeps lanuhydrosus. 能吸水和。

Naphtholum = β-Naphthol. 帯红白粉。與 Eisenchlorid 呈绿色。(α-Naphthol 紫色。)

Eserinum sulfuricum = Physostigminum. 白粉。

Resorcinum = Metadioxybenzol. 帯红白粉。 {Ortho 喜 / Meta 男 / Para 仏}

Salolum: 一種 Phenol 也。白晶。

Sulfonalum = Dimethylsulfondiaethylmethan
Trionalum = Aethylmethylsulfondiaethylmethan }: 共白晶。共催眠。同量。

Tannigen = Diacetyltannin. 白粉。使鞣酸到大腸。始溶之。

Tinctura Strophanthi. 帯黄液。Strophanthus combi 等属於夾竹桃科。蛮人製毒箭曰 Inée, Orage, Orage combi 等。

五国兵事比較

	人口	陸軍出計 fr.	国民一人負擔 fr.	陸軍	国民千人ニ對スル兵	陸軍千中將校	將校以下毎人費	馬	兵百ニ付馬
伊	31.667.946	236.500.000	7.47	221.388	6.63	62	996.50	45.695	21
墺	44.288.587	407.500.000	9.21	350.657	7.92	62	1.008.10	58.864	17
獨	52.279.901	736.000.000	14.06	604.166	10.75	43	1.042.80	96.298	16
魯	128.981.828	732.500.000	5.65	1.018.000 (衛生員計夫ヲ除ク)	7.04	38	813.13	163.500	19
佛	37.490.464	645.000.500	17.25	607.525	15.71	51	1.038.00	—	24

Laute.

Vocale

1.) einf. Vocale: a, o, u, e, i. ä (offen) e (geschlossen)

2.) Diphthonge

Consonanten

Sp. Verengerung oder Schluss; Media (weich, stimmhaft) oder Tenuis (hart, stimmlos)

	Verschluss (Explosiv) Media	Verschluss (Explosiv) Tenuis	Spirantes M.	Spirantes T.	Nasales	Liquidae
Labial	b	p	w	f, pf	m	
Dental	d	t	s	ß, sch	n	r, l
Guttural	g	k	j	ch	ng	
				h*)		

*) stimmloser Vocal

Von l zu r; von palatal-r zu Uvular-r.

w < labio-labial
w < zw. ob. Zahnränder u. den beiden Lippen

f zw. Oberzähne u. Unterlippen

ph = f (deutsch) = v
└ labio-dental
└ Φ bilabial

Med. im Auslaute zu Ten. ; ng = nk

Von -s zu sch ; st u. sp lautlich sch (im Anlaute)

ch < ich — i, e, r, l, n — ö, ü
ch < ach — a, o, u
ch < k — chs

g (expl.) zu ch (spir.)

h verschieden vom jap. は行 (= ch)

Dehnungs-h : Ruh-e, ra(t)hen.

Spirantes nach b etc.

Umlaut: ä ö ü
ae eo iu

Ablaut: gehe, ging, gegangen

Apocope: lange zu lang

Syncope: schmeich(e)le

Verbum.

Einteilungen:

1.) Subject: Verba personalia
V. impersonalia (es)

2.) Object: V. intrans.
V. transit.
V. reflexiva

Flexionen:

1.) Person

2.) Numerus ⌈ Numerus majestaticus

3.) Tempus
4.) Modus { Indicativ : Wirklichkeit
Conjunctiv : Möglichkeit — { Subjunctiv (仮定), Optativ (希求), Conditionalis (約束), Concessiv (譲歩)
Imperativ : Nothwendigkeit
5.) Genuswandlung { activ. / passiv.

T.

	Präsens.	Preteritum.	Futurum.
(im Begriffe sein)			
Imperfect. (x)	Präsens (einf.)	Imperf. (einf.)	F. simplex (I)
Perfect.	Perf.	Plusquamperf.	F. exactum (II)

α) Tempus absolutus. — Tempus relatious.

Präsens — Plusqu.
Perf. — Fut. II
Imperf.
Fut. I

Aorist (unbegrenzt) : (x)

β) Vertretung der Tempora:

義ハ未来。言ハ現在。mit Adverbium der Zeit
……于未来。……Perfecto.
……Plusq. ……Imperf.
……Imp. ……Präs. Präsens histor.

γ) *Imp.* —— *Perf.*

Imp.	Perf.
ein Glied der Kette	fortdauernde Wirkung.
	Nachdruck (Imp. ノ代リニ)
direct (目撃等)	indirect (聞人説等)
切於身	疎遠於身

δ) Modi: Conjunctiv
- Präsensf. (V. finitum): Präs., Perf., Fut. I II
- Preteritalf. ("): Imp., Plusq.

Präsensformen: Möglichkeitsf.
Imperativ ハ II Cas. ナル = I III Cas. ニ用ヰテル
lassen, können, müssen ヲ代用ス
Annahme (Mathematik etc.), Prämisse

Concessivsätze 中ニ於テ
Subjunctivsätze 中 (dass……)

Preteritalforme: Nichtwirklichkeitsf. (z. B. Ich wünschte, er käme)
Opt. (gerne, doch); mögen ヲ代用ス; wünschen ノ Form ハ Nebensatz ノ Modus ト同形也
Condit. „würde" ハ必ズ Hauptsatz ニノミ用ヰテル; Condit. ハ Nebensatz (cond.) ヲ本トスレド Satzteil 又ハ他種ノ Nebensatz 又ハ省略ヲユルステス (Wer thäte es nicht)
Concess. 亦有省略。(ohne das)

Conjunctivus potentialis; Vorsichtigkeitsform トモ云フ。
憚明言也。

Vertretung der Modi: indirecte Rede = 於テ生ズ。

directe Rede ノ Preter-form ハ indir. Rede ニテ同ジ Preter.

.... Präsensform ハ .... Conj. präs.

(Indicativ präsentis)

此ニ式同ジキ件 Preteritalform

Regierendes Verbum (er sagte .....) ノ Modusformen ハ subord. 句ニ影響セズ然レドモ彼過去ナルトキハ多クハ Preteritalform ナリ。

Nebensatz (subordinirt ナル句) (indir. Rede) ニ於テハ Preteritalform ヲ用ヰルヲ常トス。

Syntax.

I. Satzteile: (Hauptbest.)
1.) Subject
2.) Prädicat. — Copula. (Subj. u. Präd. in gleich. Casus) — Verbum finitum
(Satzform der Verba, entgeg. der ruhenden Form derselbe)
3.) Object. — inneres O. (Sterben den Tod.) — Casuso. u. Präpositionalo. — das Ganze u. der Teil.
(Nebenbest.) (Ergänz.)
(nähere Bestim.)
4.) Attribut ※
5.) Adverbial
(dazu Verbindungswörter, Interjectionen.)

II. Satzarten (formal):
1.) Einfacher Satz — nackter einf. S. / erweiterter S.
2.) Zusammenges. Satz — Satzgefüge (Subordinatio) / Satzverb. (Coordinatio)

(inhaltl.)
1.) Behauptungss. 2.) Fragesatz 3.) Optativs. 4.) Befehlss. 5.) Ausrufs.

Entscheidungsfr. (ja od. nein) Ergänzungsfr. (was, wie etc.)

3.) Zusammengezog. S.

III. <u>Arten der Nebensätze</u> (inhaltlich):

(formal)
1.) Relativs.
2.) Conjunctionals.

1.) Substantivsatz { Subj. s.
Präd. s.
Obj. s. — (indirecter) Anführungss. (er sagte: ....)

2.) Attribut(iv)s.

3.) Adverbials. { Locals.
Temporals.
Modals.
Causal- und Finals.
Conditionals.
Concessivs.

~~Satz~~ Wortfolge { 1.) gerade ~~S.f.~~ W.f.
2.) Inversion, umgestellte ~~S.f.~~ W.f.
[(Ja) zeigte er <u>doch</u> den Beweis.]

<u>Elliptischer Satz</u>. (Abbreviatur)
(elleipein = auslassen)

<u>Periode</u>.

*) Apposition, z. B. Karl <u>der</u> <u>Gross</u>

動詞時制

現在 Präsens 居る

過去 Präteritum 居た

未來 Futurum 居らう

全現在 Perfectum
- 咲いて居る（一、結果の現存）
- 住んで居る（二、動作の繼續）

全過去 Plusquamperfectum
- 咲いて居た（一）
- 住んで居た（二）

全未來 Futurum perfectum
- 咲いて居らう（一）
- 住んで居らう（二）

Roman Type.

1.) Agate or Ruby Type.

2.) Nonpareil Type. James辞書独英部英語活字くらゐ。

3.) Minion Type. 自藏佛文新舊約全書活字くらゐ。

4.) Brevier Type. 自藏佛文聖書活字くらゐ。

5.) Bourgeois Type.

6.) Long Primer Type. Wundt心理学註活字くらゐ。

7.) Small Pica Type. Wundt心理学本文活字くらゐ。

8.) Pica Type. 初等讀本活字くらゐ。

嶋村抱月の譯語

語法學 Grammatik

主部 Subject

從部 Praedicat

詞論 Grammatik i.e.S. 習慣則、必照、

文章論 Syntax 論理則、不必照、唯一致支配及順序

不依論理耳云々

無主部文「もう寝やう」「僕は」不必添

無從部文「犬が〳〵」「来る」不必添

語 Wort 形式単位、言語

章 Sentenz 内容単位、思想 「泥坊」と呼ばば「泥坊なり」の義

言語
- 離思想観 言語 単位は語
- 即思想観 辞 単位は章

諸国語
- 孤立
- 貼会
- 曲折

英國教育

一児一週の教育料九Pence（二十銭）なり。政府より給す。學校の維持困難なるときは、生徒より之を納めしむ。

九時至四時を教授時間とす。小児校外に在るを見れば、警察官捕へて保護者に通知し、二Shillings（五十銭）の科料を納めしむ。

師範學校は宗派毎に殊なり。卒業の権視学官に在りて、全国の平均を保持す。

体罰は佛、墺に無し。独、英、米、瑞西に有り。

Aspirinum.

$C_6H_4 \begin{cases} -COOH \\ -OCO(CH_3) \end{cases}$ 水楊酸曹達に代へて用ゐる。酸に溶解せざるが故に腸に到りて始めて功を奏す。2-2,5 pro die.

Idiosynkrasia.

名古屋の一兵米飯及粥を食へば必ず吐す。生來赤小豆を常食とす。雪花菜も調理せずと雖、能く食す。一たび入院せしとき強ひて飯を薦め、一月の後日に一碗を盡さしむ。院にてこれを

厭ひて逃れ去る。逮捕して監獄に投じ、期満ちて又入院す。即經性男弱の名を命じて除隊す。（宍道弘一話）長門国酒商の子、十二三歳にして忽ち飯を厭ひ、温飩蕎麦を食ふこと年餘、祈禱して治す。又大麦を食へば必ず吐下するものあり。

北清事件中の水

一、北京にては北門外の井を飲用水とし、其他の井を雑用水としたり。

二、天津にては紫竹林の英人所設の濾過上水ありて、一日一萬 gallons を給し、市内には陸軍省送遣の蒸餾器ありて、一日五噸を給したり。

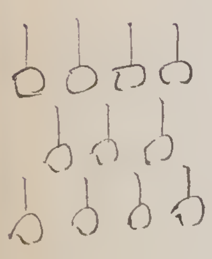
三、太沽には英軍の蒸餾水あり。一時間一乃至二噸を得べし。

四、山海関は良井を選みて用ゐたり。

雪行

明治三十四年三月屯田歩兵第三大隊は天塩國上川郡及石狩國雨龍郡を行けり。

一、行進　天候地形並に好きときは、中隊以下は一列側面縦隊に宜し。数列を以てするときは、先頭兵多く、随ひて疲憊兵多し。大部隊は三四列混合側面縦隊に宜し。間隔の雪を留めざればなり。



先頭と後尾とをして交代せしむべし。小隊は毎五十分に交代す。

速度は最大限毎時二千米とす。雪膝を沒す。

休止は毎五十分に十分、一日一二回四十分。

露營設備は午後三時に始めざるべからず。午前五時發程、八時間をもって四里を行くべし。（休止二時間）

小隊間距離は天候地形に從ひて存否す。存ずるときは、後方小隊は卸嚢休止して後、距離を恢復することを得と雖、亦聯絡中絶の虞あり。

磁針は必要なり。

行李は負担すべし。手橇は疲れ易く、坂路に宜しからず。

凍雪は後方部隊を疲らしむ。雪粉の為めなり。

六、露營　雪穴の直徑は六乃至八米、天幕を用ゐるときは八九米とす。中央に焚火し、二十至三十人放線状に臥すべし。小なれば薪を割く勞あり、又火を抑へて烟を生ず。大

なれば寒し。
燎火部に必ず掘りて地に到るべし。否れば庭半雪陥りて寒し。
地床防湿法必要なり。
改良携帯天幕は九片を張りて十三四人を容る。開張時に五人二十分。
三、衛生　毛布毎一人若くは毎二人一枚に重しと雖、安眠の利あり。

毛布製足袋又毛布纏絡、藁靴。
紗眼簾は眼鏡に優る。
患者運搬は人背、担架、（桿を長くして後端を把る者の道を観ることを得んを要す）手橇。（坂路に宜しからず。）
四、給養　「アルミニウム」飯盒は各人の炊爨に適す。
柳飯骨に飯を盛り、背嚢中に入るるときは、凍ゆること少し。
摺味噌を携ふべし。汁を盛るには、飯盒中蓋は熱して

手を縛るべからず。木椀を帯ぶべし。

佛國 Alpin兵

雪眼鏡又は緑又藍色綿紗片方二十仙米

加奈陀式雪履

雪韈

索一人一米半至二米

山杖

鼓浪と厦門と

鼓浪(コロンス)嶼は道皆沙なり。花崗石多し。樹木茂れり。井多し。井も口狭く内濶し。格魯兒量も低地に多く、阪を登るに従ひて減ず。

土人三千欧人三百ばかりあり。欧洲諸國の領事館あり。

牛乳搾取場あり。牛四十頭を畜ふ。中に水牛を混ず。

水牛乳は價廉なり。製氷所あり。日に二千封度を作る。されど飲むに堪へず。食品を貯ふるに供するのみ。一行

の價三錢。（香港の氷は一斤一錢五厘、輸して此に到れバ一斤五錢となる。）

醫師に歐人あるのみ。瘧疾に布り。

廈門は淡水を距ること海程十九時。沙路にして花崗石多きこと上に同じ。平地なり。

人口三十萬あり。市街は鼓浪と相對す。富山の賣藥店あり。學校ありて長瀬鳳輔師たり。三井銀行あり。

市街は不潔なること台灣より甚し。百思土は往々茲に流行せり。土俗食器を浄むるに或は熱湯に投じ或は煮る。井鹹にして飲水を他所に仰ぐ。水ある地は鼓浪の邦坪尾及官仕なり。一湾を隔つ。其井は山麓の深井にして、汲むに桔槹を以てす。溝渠より竹筧に通じ、水船に入る。水船の數十五あり。一船に二十乃至五十噸を盛るべし。船は構造疎にして、途上海水の滲入することあり。一噸（六石）の價三

十五錢。主管はジヤヂン商會(英)と利記洋行(獨)となり。軍艦の水を求むるや、信號旗を揚ぐ。雜用に供せんが爲めなり。飲むところは鑵水なり。上陸者は二斗樽を携ふ。

鼓浪嶼及廈門は多く食品を漳州に仰ぐ。

北清歸客談

塘沽より天津に至る、滊車一時半、天津より北京に至る、六時、天津より山海關に至る、十三時。鐵道ハ英獨の管するところなり。一等一人八圓にして北京に達すべし。軍人は三分の一を徴す。

塘沽北京間には野戰電信あり。邦人と通ずべし。塘沽山海關間には唯だ横文電信あるのみ。

我駐屯軍の英人に拂ふ滊車電信費月額二三萬圓なりと云ふ。

天津北京間梨、林檎多し、又氷を賣る。北京にラムネあり、擬造平野水あり。我軍並にこれを禁む。

北京の街を胡同(ホウトン)と云ふ。衚衕と書く。

北京城内の井水は飲むに堪へず。硬きこと甚しければなり。

安定門外に五井あり。遠き者は門を距ること一里半。皆飲むに堪へたり。駐兵は馬車にて運搬し、監視兵を附す。此水は北京中流以上の民の平生飲むところにして、會社ありて管理す。汲水を業とせる者あり。

肅親王府新兵營には蒸餾器二個を持來れり。又名廿護屋より掘井夫を招き來て、三井を穿ちしに、其一は良水を得たり。

天津の民は、白河の水を、明礬にて澄ましむ、而るに後に蒸餾

して飲めり。一人一日二升と供給するに足る。後一人三升と
なりぬ。
英租界居留地には英の會社ありて水道を設けたり。水は此に仰ぐものにて一日一錢にて拂ふ。給水は白河の支流をひき、沈澱せしめ、沙漉し、高水槽に移して配送す。
太沽にては白河の水は蒸餾して一人二升を給するに足れり。塘沽、新城等に舟送するに、運搬中微濁することあり。

鹹水沽にては明礬にて白河の水を澄ましむ。河側に井を掘りしに、其水白河より清けれど、鹹甚しかりき。白河も鹹ならむ。
山海關附近にては山に縁近く水清き河多あり。井水も亦清し。
酪飯は腐敗すること速し。
天津なる獨乙野戰病院にはDoecker式假舎を設く。每棟二十二牀。細菌學用大缸は每師團二個ありと云ふ。越幾斯先

線香、消毒香、並ニ馬車ニ上すべし。又蒸餾水なども。雑用水とハ明礬にて澄まして煮沸す。

佚書

宋ノ陳舜俞ノ廬山記元禄十年板

馬令ノ南唐書鈔本。自序

李文叔洛陽名園記。日本板。張琰序。

李屏山ノ鳴道集説。日本板。耶律楚材序。

修證義

善悪の報ニ三時あり。

一ハ順現報受　現とハ現在なり。一世中ニ應ず。

二ハ順次生受　次世中ニ應ず。

三ハ順後次受　次世巳後の世中ニ應ず。

制度とハ塔廟なり。

餘不亭とハ地名なり。

曹洞の宗義とハ本證妙修なり。

水龍

水龍（宋史）龍尾（元史）と同物にして、汲水の具なり。竹龍（五代史）と刹蛇龍は殊なり。而れども蛇龍も亦竹龍と称すべし。

長嘯

汪啓淑の水曹清暇録に云く。撃壌、長嘯、剣器舞、弾棋、皆傳はらざるなり。而して剣器渾脱は我雅楽に存せり。

台湾兵営の生活　一、水

台湾兵営は濾過煮沸の水を用ゐ居れり。

澎湖嶋は井水に依れり。将校は海軍に請ひて、一日麦酒瓶一箇の蒸餾水を受く。雨量は一年千二百四十ミリメエトルに過ぎず。恐らくは貯ふるに足らざるべし。一日三升を得べき蒸餾機関を備ふるを可とせん。

基隆湾口社寮嶋は今山間の泉を引けり。一年雨量五千二百三十八ミリメエトル、十、十一月の如きは八百四十八乃至八百七十二ミリメエトルの雨量あり。これを貯ふる策を立つべし。

二、衣

平均年温ハ南端二十四度七分、北端二十二度を下らず。夏衣制ニ宜し。只北端冷熱の差約十三度なるが故に、特別加給品なかるべからず。

帽は兜形栓木製を可とす。靴は軽き帆布(ズック)製を可とす。

三、食

三旅団平均十七銭三厘の菜代にして、内地の約三倍なり。而るに栄養不給なるは一、廣く食品を求めず、二、用達商人に委ねて監査を怠る、三、調理悪しきに因る。陸軍は部隊に専門の掌を置き、若くは兵をして輪番に料理法大意を實習すべし。」

台湾米は價廉にして粘膠質に乏し。

四、酒保

葡萄酒は砒毒を含む者あり。焼酎、幹吃酒、亜力酒、拉母酒は強烈に過ぐ。

酒保は宜しく日本酒と麦酒とを備ふべし。

營内に「ラムネ」を製するは可なり。印度諸営に曹達水を製して、兵に無代価にて給すると同じ。「ラムネ」一瓶二銭を備告し。若しくは特約を結びて平野水を獲ば可なり。

五、水浴

水浴を行ふべし。先づ湿布もて身を拭ひ乾燥せしめて後、数分間浴すべし。温浴も滅菌の功なく、却りて病毒の発育に適す。

六、防瘧

明治三十至三十三年守備隊（憲兵隊を含む）の損害如左。（平均一年）

負傷	66.50
瘧	34211.75
戦死	69.50
瘧死	273.25

明治三十三年台湾全旅団の患者は内地全師団の二倍四分、死亡は七倍三分なり。患者の平均六十五%は瘧、死亡の平均五十三%は瘧死なり。

豫防法は一、排水乾土及滅蚊 二、蚊蟵、室隙に蚊帳地又は細眼金属網を張り、夜行には露身部を覆ふこと 三、瘧人は隔離して室と蚊とを別けること 四、一たび瘧に罹れる者は次年流行時に規尼涅を服せしむること 五、避蚊を努むること是なり。古說窓を閉ぢ、又沼地に停留し地上に平臥すべからずといふは避蚊に外ならざるなり。

明治三十年至三十三年の土匪鎮定費は約八十五萬圓なるも排水乾土の費何ぞ惜むべけんや。

沼にては水深一米以上あるときは蚊を産せん。故の飛ぶことは縦に二十米、横に百米、風を避けて蟄伏す。

沼は乾かし水を流れしめ、（又は一米以上に湛へしめ）藪を芟るべし。

墻壁を塗るべし。

水牛池は他に移せしむべし。（又一米水深以上たらしむべし。）水田は窒息薬（的列並油、阿列布油、撒布薬中石油尤便なり、水面一平方米に半リイトル）毒殺薬（ラルヸチド又除虫菊）を試みるべし。

交通機関と衛生工事を重んじ、収利の営業を軽んずべし。

七、交期

台湾守備隊は初め毎約二年半数交代せり。交代は毎年十月に始まり十一月に終る。明治三十二年以後一箇年（毎）全数交代となり、毎年約六月より十一月に至る。第二旅団最早く、第三旅団之に次ぎ、第一旅団最遅し。交期の期左の如し。（将校同相当官は約二年。）

第弐旅団　六、七月　（台中）
第参旅団　八、九月　（台南）
第一旅団　十、十一月　（台北）

瘧疾行期は近年左の如し。

台南　五、六、七月

七、八、九月　台中
八、九月　台北
十一、十二月　基隆

瓜期改正後病数増多ハ第二期国のみ。第一は流行期ニ中ると雖、市街衛生改善の為めニ無害なりき。

瓜期は一月至四月を可とす。若し現今の時期を以てすれば、第一、第三、第二の順序ニ従ふべし。

八、医務

水牛乳脂肪六、八％一合の價台北ニ於いて十銭、嘉義台南ニ於いて五銭なり。印度衛戍病院の制ニ倣ひて、院内ニ牛を養ふも可なり。

患者ニ鳳梨、檬果、龍眼肉等の果汁を給すべし。

卵は鶏卵の小を棄て、家鴨卵の大を取るべし。

愛玉乳（愛玉は無花果属、蕃界ニ産す）杏仁茶と給するニ宜し。

（以上小池正直報告）

兵権

君主は兵権を握ると雖、軍事法律及び国務ニ連る軍政事

項は大臣の建議と議會の協賛とを要す。豫算、徴兵令、要塞地帯法、軍用傳信法、軍人恩給法等の法律、官制、給與令、徴兵事務條例、銃砲火薬類取締法施行規則等の勅令各是なり。

共和国は頗る殊なり。米は議會民兵の編制及使用の權を有し、大統領は少数の聯邦常備陸海軍の司令權あるのみ。佛は大統領兵力の使用權ありと雖、自ら高等司令を行ふことを得ず。瑞西は大統領議會閉會時に限り軍隊を召集することを得と雖永く軍隊を用ゐ又二千人以上を用ゐるときは議會を開く。

君主の軍務は軍令、軍機、經理に分つことを得べし。軍令は軍隊の運動、兵器の使用、兵員の用役に關する命令なり。軍機とは常備兵額、編制（常備軍後備軍）衛戍地指定、動員下令、戒嚴等命令上の機務なり。經理は軍需物件の装備、給養、被服及人事上諸件なり。

我天皇は常備兵額及編制を定め給ふ。師團長は軍令上天皇に直隷し、軍機上都督、参謀總長、教育總監及、軍政

（軍機経理）上及人事上陸軍大臣ニ隷ス。至高軍令は平時
陸軍大臣、戦時参謀総長奉行ス。参謀総長、教育総監して
軍機上天皇ニ直隷し、従は国防及用兵の計畫を掌り、之ニ関
する命令を立案し、允裁の後陸軍大臣ニ移し。（軍機、軍令事
務を含む）此は教育を掌る。（軍機）陸軍大臣は軍政を掌
り、（軍機、経理、行政事務を含む）軍人軍属を統督ス。故ニ
国防用兵上事項、戦時勤務令、野外要務令、外国兵事上事項、
戦時編制、動員計畫及訓令の類は参謀総長帷幄上奏し、操

典、教範、教育上事項は教育総監帷幄上奏し、其他の事項は
大臣帷幄上奏して允裁を仰ぐ。右の参謀総長、教育総監、大臣等
は又軍事参議官として帷幄の機務ニ参ス。
明治十九年の公文式は法律勅令皆内閣ニ於いて起草し若くは諸大臣
案を具へして内閣ニ提出し、総理大臣上奏ス。明治二十二年内閣官
制は軍機軍令上の事は旨ニ依り内閣ニ下付せらるる件を除く外、
大臣は之を総理大臣ニ報告するのみ。帷幄上奏は此ニ本づく。次い
で明治二十三年十月定員令制定の時、帷幄上奏の範囲を立て

ち。

帷幄上奏（統帥事項）

参謀本部條例　教育総監部條例　都督部條例

師団司令部條例　要塞司令部條例　築城部條例

陸軍砲工学校條例　陸軍砲兵会議條例　陸軍参謀條例

衛戍條例　防務條例　陸軍々隊検閲條例

陸軍々人休暇規則　代理規則　陸軍礼式

近衛守衛隊規則　陸軍武官考科表規則　陸軍常備団隊配備表

野外要務令　軍隊内務書　歩兵操典

将校団教育令　平時編制　動員計画訓令

請議上奏（行政事項）

陸軍省官制　台湾総督府官制　憲兵條例

陸軍編修官官制　陸地測量官々制　同上任用規則

陸軍給与令　軍隊経理條例　徴兵事務條例

召集條例　陸軍六週間現役兵條例　結婚條例

台湾戒厳令施行の件　法律規則中執行ト称スル件　軍事郵便件

軍服の色

Le Khaki 色は敵の目標とならざる利あり。

独逸教育時期

新兵入營 十月中旬（佛十一月十五日）

各個教練畢 四月上旬（佛三月中旬）

中隊教練畢 八月中旬（佛六月）

移動演習 八月下旬至九月下旬（佛九月）

月落烏啼霜滿天

しもみちみちと訓ずべし。小澤新兵教育講習録中の説なり。

筑前の人物

儒に益軒、南冥あり、勤王家に月形洗藏、加藤司書、平野國臣、野村望東、鷹取養巴、武將に高橋紹運、立花宗茂、商賈に紙屋宗湛、伊藤小左衛門、末次興善、刀工に左文字、信国、金剛兵衛、孝子に武丸の正助、海須の猫四郎、歌人に大隈言道、志士に越智彦四郎、建部小四郎、今村百八郎、詩人に松林飯山あり。

琵琶行

借耳鼓吹中の唐團扇を以て琵琶行を譯し得て妙なりといふものあり。首肯し難し。

求亡守遺

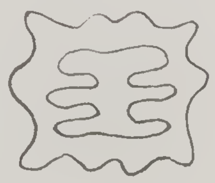
南郭文に此語あり。羅馬の希臘に於けるは是なり。

医人

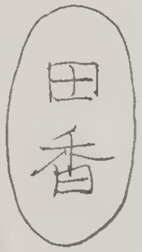
医人の語は論衡に出でたり。夫百草之類、皆有補益、遭医人采掇、成為良薬。

豊前の隨筆

上野(アガノ)燒最著る。其印記左の如し。



田香(デンカウ)といふも同じく豊前の窯なりきといふ。



國造本紀考

栗田寛の著す所の書なり。曾て存採叢書中に刻

すゝ坊間ニ無し。

字音二三

○傯、薄邁切、音敗清、疲極也○傯傯、傯（イヨウ）即勇切、傯（イヨウ）、尹竦切○掐（カフ）、苦洽切、爪刺、俗言つあるまは常らざる如し○擽擽、擽（レキ）、郎狄切、鈔也、打也、こそぐるニ訓ずる出處詳ならず○擬議、擬、議也、揣度以待也○擿（テキ）、側格切、つむ、他歴切、発動也○揖（イフ）、一入切○拭（シヨク）施職切、指也

仲哀陵

長門國豊浦郡長府村日頼寺境内ニ存す。

葉帰庵

大和国添上郡帯解（オビトケ）村大字（アザナ）山普門山円照寺葉帰庵は後水尾天皇第一皇女文智（モンチ）女王の向栖ありし所伏見宮文秀女王再興し給ふ。

字音二三

○罹、鄰溪切音離。遭也。冒也。鄰知切。毒也。良何切。心憂也。

○斡古緩切。轉也。旋也。運也。又烏活切。義同。旋句緣切。周旋欲圓如規。折旋欲方如矩。斡旋轉也。○輟朱劣切。止也。輟耕。○辨說文判也。辯字彙與辨同。○迍(ジュン)邅又屯邅。邅諸延切。難行不進。○邀伊姚切。音腰。求也。○酹力遂切。音類。以酒沃地也。○釉尤救切。物有光也。

うつなし

うつなくは決然なり必なり

M. Pobyedonostseff.

露の政客なり。明治三十四年内務省某書を譯して、警察官に配布し、世議を被る。

常山紀談中訓詁

竹籠(コ)中の鳥○雑賀(ザイガ)○大久保忠鄰(チカ)○四月朔日(ワタヌキ)○新納(ニヒロ)
○輪丹月(モチヅキ)○角南(スナミ)○肩をはだぬぎ云々○秀包(カヌ)○可児(カニ)
○真令(サネノリ)○辰(トキ)政○前田慶次利大(オキ)○真田信仍(ヨリ)○坂部

岡融成の淺野長晟の眞田信尹の備後國三次の
木全の水戸綱條の滿淺の壺簪録の鐙の江ノ廻の
鞁瘃の讁滈州の韓術胄の杳然の溢、隘の各
務の栢植の黒田孝高

大日本史中文字

土肥實平傳に曉暢軍事とあり。又大庭景能傳に慣
磬控とあり。

毦

國語に被羽あり。韋昭註に負毦也といふ。東涯壺簪録
に以て母衣となす。毦は鳥羽にして襍幟に似たり。母衣は唐
六典の布背甲と似たり。

千字文有三

曰魏鍾繇所撰、曰梁周興嗣所次、曰梁蕭子範所製。

塵冢

A 90
443

東京帝國大學圖書印

B 23475

0004320834

塵冢巻二

撲買

政府富豪をして税を前納せしめ、富豪税を民に徵す。宋の開宝元年に始まる。

鷗外藏書

元聖武親征録

文献を刊行。元朝秘史と併読すべし。蒙古牧游記、西游記朔方備乗等皆参すべし。

轄曼斯

轄憂斯（シャアカス）は中央亜細亜ならん。沙陀（シャタ）、回鶻（ホイフエ）の西北に在り。烏（ウ）孫（ソン）は較西に位し、轄憂斯と共北に在り。乃蛮（ナイマン）は適（メ）蜜（ミ）哩（リ）［密］と共に外蒙古（モンゴ）より西伯利亜に入、斡朗改（ヲランカアイ）は轄憂斯と乃蛮との中央なり。

卸

司夜切。

やぐるま

俗にやぐるまと称する草をCentaurusなりとせり。

崑崙

猶太旧記のEden, Ediniuと支那古伝の崑崙と相符す。彼も創世記に出で、此は山海経、穆天子傳、淮南子、神異経拾遺記、十洲記等に出づ。崑崙をPamirならん乎。其四水の配當左の如し。

Tarim	河水（有地下與黄河連之説者即是）
Indus	赤水
Sir Darja = Jaxartes	洋水　葉々水（漢書）　葉河（大唐西域記）
Amu Darja = Oxus	弱水又黒水

法律字書

神田区裏神保町明法堂より出す。

射

人として一書冊の某面某行第某字を暗記せしめ、これをして左の算式に従ひ、得る所の数を告げしむるときは、面行字数を射ることを得べし。

(面数)＋(面数)×5＋(行数)×10＋(字数)−250＝

a面b行c字

着色造形術

着色造形術とは顔料を用ゐて堆起する者を合つことと左の如し。(塩田力蔵)

顔料堆起

- 積極手段
  - 増加法
  - 添付法
    - 有機物体
      - 繊維素
    - 無機物体
      - 水硝子
      - 堆描窯技 (Pâte sur pâte)
      - 膠琴下地
      - 紅、緋、(加藤友吉発見) 黄、(飛鳥井孝太郎発見) 茶、緑、青、紺、黒、白
- 消極手段
  - 減少法
  - 削除法
    - 金属材料
    - 硝子材料
- 光化学及電化学応用

窯技用顔料

磁器用　釉下繪具　Seger 三角錐十番以下の熱(二)

陶器用(Fayance)　〇六番以下(三)

上繪付(三)

窯技名稱

Terracotta 土焼(一)

Basalt(玄武岩)黒焼(三)

素焼白磁(三)

Jaspis 碧玉(四)

竹及甘蔗色素焼磁器(五)

大硬度素焼磁器(六)

蒔繪

一、聖武時代。支那風印度風の繪。

二、平安京の初より藤原時代。日本風の繪。(土佐繪)

高野山の袈裟匣。

仁和寺の聖経十三冊(弘法将来、後教王護国寺所蔵)の筥。

同寺の宝珠筥。(珠数の珠、水精の舎利塔を納む。)

福井縣若狭彦神社別當神宮寺の筥。

三、平家以後。

葦手繪。為家筆乱箱。

四、鎌倉時代。

鶴岡頼朝の硯筥。

伊豆三嶋神社政子の手匣。（或云、政子より後ならん。）

五、足利末造以後。

狩野繪。

金銀粉。蜜僧陀。

色漆。（鎌倉時代に始まり、中絶し、越中城端の治五右衛門発見し、又中絶せり。）

譯語

巽軒文中、regularity 合則性○ variety 駁雑性○ congruity 適合性○ symmetry 均齊性○ artificiality 故意弄巧）

戸部焼

伊豫戸部焼も白磁なり。

佛山の書

行橋商家に佛山の書一幅あり。閑雲流水の四字にして、六十八翁佛山と署せり。印四顆。曰嗽石枕流。曰佛山。曰村上剛印。曰□哉園主人。

書は太拙の

船名

Armoured ships 装甲艦

Unarmoured ships 非装甲艦

- Cruisers 巡洋艦
- Torpedoboat catchers 水雷捕獲艦
- T. b. destroyers 水雷駆逐艦
- Sub-marine boats 潜航艇

Frigates, sloopes, corvettes, gun-vessel.

皇族武官

一、小松宮彰仁親王　元帥

二、伏見宮貞愛親王　第一師団長

三、閑院宮載仁親王　騎兵第二旅団長

四、久邇宮邦彦親王　歩兵第六聯隊中隊長　陸軍大学校学生

五、梨本宮守正王　士官学校大尉教官

おしつけ

宮中試食の様なり。

勾玉

出雲の傳說に依るに、古史に火明玉（ホアカルタマ）あり。正倉院所藏筑後國正稅目錄に從ひて、諸玉の單價を算すれば左の如し。

赤勾玉	二束四把	縹勾玉	一束八把
白玉	六把二分九厘強	竹玉	一把七分
丸玉	一把二分	緑玉	七分五厘強
紺玉	五分八厘強	漂玉	五分一厘強

錢書

圖書

明治新撰泉譜　全三冊（價一圓五十五錢）

古錢鑑識訓蒙　全一冊（價五十錢）

新撰寛永錢譜　全二冊（價五十五錢）

畫泉譜　全二冊（價六十五錢）

寛永泉志　第一巻、巻二（價三十錢、三十五錢）

古泉早見　一枚（價六錢）

新校正孔方図鑑 全一冊
珍銭奇品図録 全一冊
符合銭志 全三冊
泉幣考遺 全一冊
中外泉史 全二冊
和漢泉彙 全一冊
奇鈔百図 全一冊
古今泉貨鑑 全十二冊

古銭大全 全三十八冊
寛政孔方鑑 全一冊
皇朝銭図 全一冊
畫銭図録 全一冊

漢書

欽定銭録
泉志
錢志新編
古泉匯

雛の貝

和名かめのて、漢名石砌。

すぎな

俗に土筆の生長せるをすぎなといふ。漢名問荊。

日本と支那との貿易額

人口に配するときは、我国は毎一人十二圓、支那は毎一人五十錢。

十地

信忍 三年

一、善覺 四摂法（布施、愛語、利行（一會瑒行）、同事）

二、離達 離患達善

三、発光 発智光

順忍 三年

一、炎慧 発智光

二、難勝 無所畏

三、現前 果報一一

無生忍 三年（一一一無滅）

一、遠達 又云遠達

六等観 平ーー

三 恵光 五眼（肉眼、天眼、恵眼〔心眼〕、法眼、佛眼）

以上九地

寂滅忍 芬十法雲地（ー法雨）

轉輪王 ーー者治民也

一部の價中六圓。

社會字彙

台湾雲林ニ在り。廣瀬竹八採集せり。

Anopheles

流行性脳脊髄膜炎

明治四年夏京都附近ニ流行す。新宮涼閣診断す。（宍戸俊治報）

記性在脳

汪訒菴本草備要辛夷の注ニ出づ。医賸抄出す。

わケ

古ニ訣と書す。後訳ニ誤り、譯ニ作る。尺ト釋の省なり。訳沢

等皆非なり。

本復

病の本復と応じて復本に作るべし。東鑑に見ゆ。

日本家屋の換氣

日本家屋の換氣量は煉瓦造に比して約六乃至七倍大なり。(緒方正規)

Anopheles

都築甚之助は北海道種一、台湾種二を報告せり。

トボシ

「トボシ」又「エブリコ」は菌なり。*Polyporus*族か。落葉松に生ず。拳大より人頭大に至る。表面黄又褐色、断面白し。「アイヌ」以て解熱薬と為す。*Agaricaceae*及一種の華爾斯様物を含める。〇、〇五至〇、二の體質末を制汗す。

掻切の花菖蒲

久保寺胤夫の臣宮内某主命を奉じて、陸奥国安積沼の花かつみを取り来しなり。胤夫は康正三年六

月石濱の千葉、以實胤に属して、馬加なる陸奥守
孝胤と干戈を交へ、戦死せし天明中麻布龍土町の
旗下松平左近（蹄萬翁）と其友本所割下水の方
年と、更に安積沼の花かつみを得て作らしめり

佛教

或人諸經成就の次第を説いて曰く、
成道第一年華嚴
第七年般若經
第十年如來藏
第十三年阿含完結
第十六年維摩大集方等開演
第二十八年瓔珞經
第二十九年般若部
第三十八年解深密
第四十二年觀無量壽
第四十八年法華
第五十年涅槃經、入滅
滅後六百年馬鳴起信論

仝七百年龍樹大智度論
仝九百年瑜珈唯識倶舎
仝千百年護法浄弁註疏

ここの結びの破格

活刷異本山家集拾遺一一三、山里に誰をまたこは喚子鳥ひとりのみこそすまんとおもふに。桂園のあけてこそ見んと結びしに合せたるべし。

ついでありて井上通泰に告げおきつ。

支那現況

光緒帝は文宗の弟醇親王の子なり。一八七二年八月二日生、一八七五年一月二十六日穆宗に継ぐ。太祖より九世。文宗の妃西太后摂政。一九〇〇年一月端郡王の子溥儁を皇嗣と為す。

法律は大清会典に載る。

中央政庁に十三部あり。

軍機処　枢密院にして内閣を兼ぬ。軍機大臣五名以下。章京又は軍機六十名。

内閣　恒例詔奏を掌る。中堂、宰相、相国、協弁、内閣学士、侍読、典籍、中書あり。

総理各国事務衙門　外交を司る。王大臣を置く。各省将軍鎮撫総督大臣を兼ぬ。

通商大臣　直隷総督（天津）両江総督（南京）南洋大臣、北洋大臣。

海軍衙門

六部　吏部（内務）戸部（農務民部）礼部、兵部、刑部、工部あり。尚書、侍郎、郎中、員外郎、堂主事、主事、司官、部寺司庫、司務、部院庫使、司獄、司匠あり。

都察院　立法、司法、行政の監督。左都御史、右都御史、左右副都御史、御史あり。

通政司　文書伝達所。通政使司、通政副使、通政司参議あり。

大理寺　大審院なり。

翰林院　大学なり。掌院学士、侍読学士、侍講学士等。国史館属す。

五寺　大理寺、太常寺（祭祀官）太僕寺（牧馬所）光禄寺（饗宴官）鴻臚寺（賓礼官）あり。

國子監　一名大学。管理国子監大臣、祭酒、司業、監丞、博士、典簿、典籍。

理藩院　拓殖務省。蒙古、西蔵の政を掌る。尚書、侍郎あり。

支那本部は十八省あり。毎省府庁、直隷州（郡）あり。府を分って州、県となる。

本部十八省に総督、巡撫あり。駐防八将軍あり。東三省に満州三将軍あり。

蒙古、伊犁に将軍都統あり。総督は正二品なり。巡撫と並びに政を行ふ。

総督は兵部衙門長官、都察院長官を兼ぬ。巡撫は撫院、撫台とも云ふ。

従二品なり。総督の下に中軍、文巡撫、武巡撫あり。巡撫の下に按察使司、塩運使司、布政使司、糧道、分巡道、海関監督、知府、知州、知県

等あり。

總督は十八省中山東山西、河南を除き、十五省中に八人あり。

直隷總督、在天津、治直隷省

四川總督　成都　四川省

兩江總督　南京　江蘇、江南、安徽省

陝甘總督　蘭州　陝西、甘肅省

閩浙總督　福州　福建、浙江省

兩湖總督　武昌　湖北、湖南省

雲貴總督　崧蕃　雲南、貴州省

兩廣總督　廣東　廣東、廣西省

河東河道總督は黄河の工事を司り、漕運總督は運穀の事を司る。

八將軍は一品なり。下に副都統、協領、佐領、防禦、驍騎校、委署驍騎校、前鋒、領催等あり。

江蘇將軍、在江寧

湖北將軍　荊州

福建將軍　福州

浙江将軍　杭州
陝西将軍　西安
甘粛将軍　寧夏
四川将軍　成都
廣東将軍　廣州

陸軍は八旗兵（三十萬と称す、實は十万）及緑旗又は営兵（六十萬と称す、實は二十万）あり。緑旗は十八軍団に分ち、将軍に属す。海軍は北洋艦隊滅絶後新艦五隻あるのみ

支那の水

北京の兵営の蒸餾水装置は一日七噸の水を出す。掘井は名古屋職工の掘りし所にして、深さ二十八間。安定門外の水に匹敵す。天津の蒸餾水装置は舟中に在り。塘沽も亦此装置あり。

地下戦の名目

●突撃陣地○坑道室○枝坑路○薬室●堡塁○外壕
○繞田坑路○候敵坑路○横坑路○枝坑路○烟坑○薬室

海岸地形

Marsch = Niederung; durch Dämme geschütztes Küstenland.

Düne = Flugsandhügel.

Geest = Gegensatz von Marsch; höher, unfruchtbar.

三国時代の地下戦

魏明帝大和二年蜀の諸葛亮魏将郝昭が守れる陳倉(陝西省鳳翔府)を攻むとて地突を作る。即坑道なり。

○ていかかづら

ていかゞづら。絡石。Trachelospermum jasminoides Lem.

夾竹桃科に属す。腊梨中白き風車の如き花ありて、葉は楕円形なる攀縁植物なり。小児此花冠を細き禾穂に貫きて、嘘きて旋転せしめ、淀の川瀬の水車と唱ふ。種名は茉莉に似たると謂ふならん。実は長く種に眉刷毛に似たり。小児此種子ときつねのかんざしと唱ふ。

綿

延暦十八年(七九九)七月。初自称崑崙(Malay)人。後称天竺人者将來。見于日本後紀巻八。十九年四月栽于諸方。見于類聚国史巻百九十九。梵名Badara轉為国語

梵文渡來

波羅門僧正菩提仙那。(Bodhisena)天平八年(七三六)來傳。居于菅原寺。寂于靈山寺。時天平宝字四年(七六〇)也。萬葉集歌所謂波羅門即斯人。

支那稗史

唐書藝文志に、小説家類三十九家、四十一部、三百巻あり張華博物志、段成式酉陽雜俎、干寶搜神記、陸羽茶経の類なり。今の小説も稗文なり。元代に至り、施耐菴の水滸傳、羅貫中の三国志、(續文献通考に據れば貫、字は本中杭州の人、貫中は別號)王實甫の西廂記、(或は元の關漢卿の作と)高東嘉の琵琶記等あり金瓶梅、西遊記を晩出なり戯曲には湯若

士の牡丹亭還魂記、邯鄲夢、南柯記、紫釵記等あり（伊藤庚午郎氏談史隨筆）

東露兵数

西伯利亜及満東露国平時の兵数は我二十師団に頡頏す。左の如し。

歩兵	百七十六大隊
騎兵	四十六中隊
野戦砲兵	七十二中隊
技術隊	十八大隊と三中隊

○陣中の燭

線香を筒中に蔵するもの尤便なり。

○巣林子

烏巣禅師の樹枝上に棲みしに取れるか。（郷谷庭篁）○荘子逍遥遊の鷦鷯巣於深林不過一枝の居に安心の義に取れるならん。（梅澤梅軒新小説第七年第十二巻巣林子雅号考）

○梨銃

我銃身用鋼材は外産なり。注文後六月にして至り、工作二月にして成り然るべし。

○獨乙陸軍

一九一〇年に五〇五八三九人となるべし。

歩兵　六百三十三大隊

騎兵　五百十中隊

野戦砲兵　五百七十四中隊

其他略して記さず。

橦音幢、桶に同じ、佛經の函なり。(佛經註)

楡橦

麻疹

天平九年丁丑

長德四年戊戌七月

万壽二年甲子

承暦元年丁巳

文明三年辛卯

永正三年丙寅

慶安二年己丑

元禄三年庚午
享保十五年庚戌
宝暦三年癸酉
安永五年丙申
享和三年癸亥
文政七年甲申春
天保七年丙申夏
文久二年壬戌

方等臨行、謂所親曰、吾此役出征、必死無二（南史）又今役（此役）

（南齊書蕭恵基傳）近役（竟陵王傳）あり此役、今役ハコノタビ
近役ハチカゴロなり。

東京の衛生上近況

明治三十九年府内傳染病四〇五八人、死亡一〇五三人、其半
は室扶斯なり。
明治三十八年府の人口一九六九八三三人、浅草尤衆く赤
阪尤寡かりし記
東京の最高地は牛込若松町附近にて海上百二十九尺、最

低地は深川千田町附近にして海上四尺。
府の面積、四、七方里あり。
街灯は電灯二万四千、瓦斯灯二千六百、石油灯九万あり。
大下水延長五一〇五七間、地先下水は其十倍なり。

駱駝

駱駝一頭は五十貫匁（大なるは其倍量）を負ひて二十里を行く。食料大豆二升八合、藁二貫匁。

露伴門人

神谷鶴伴、米光関月、藤本夕飈、田村松魚及岐阜人某なりと、松奥語る。（文庫二十四巻一号）

欧洲の女優

近付川上音二郎の演説に欧洲の女優を近世のものとして説ける年代違へり。早く千六百六十四年にKILLEGREWS THE PARSONS WEDDINGを興行せしとき、女優の悪俗物議を招きしことと見えたり。

OTHELLO

千六百十二年の頃あり。DOWDENに従へば千六百〇四年の作成れるなりや。

蘭絲

英人は印度をもて蘭絲となすといふべし。

贏糧

白起傳に出づ。贏担也。怡成反。所謂携帯に糧に充つべきなりや。

百斯土

検定ハ一、鏡検 二、皮下種接(縫着) 三、培養(雑菌多きときは常温を以てす)の三段に従ふ。解剖は頸下腺、腋窩腺腫脹せりや否や、溢血ありや否やを見、腺内の菌を検す。

消毒は一、予備消毒として石炭酸五%(塩酸〇、五%)を唧筒もて注ぎ、次に板を剥ぎ、一部は床板を取るものとす。

二、真消毒は前者に次いで唧筒もて石炭酸を注ぐ。剥ぎ

たるものは昇汞加塩酸水に浸し後に広場に積み日光に曝す。床下の土を掘り反へしあり。鼠を捕するなり。消毒後
右八畳上下各六間の家にして約千五百円を費す。
には殺鼠薬を配置す。

血清は一人百乃至五百立方珊づゝ注射す。予防注射と潜伏期と看做す(きのうは過ぐべし)。独逸委員の法に従ひ凡て一般したるものゝ一立珊即一針耳を注射し熱なきものゝ三分の三とす。熱なきとは三八度以下なりき。

避病衣は雲斎上衣、同袴、同靴覆、RESPIRATOR、蛸形眼鏡、護謨手套(又手袋GUTTA PERCHAに浸したる上ぐるも可なり)と定めたり。手套を適意とす。

引導

迷故三界城。悟故十方空。(此下ニ東欽ヲ押スル所加ハルモノ多シ)

独乙の生活費

独乙の少尉は一九〇五年調の俸給月額廿五麻克其他収入

八〇、二五 計一五五、二五麻克あり。其支出左の如し。

朝食（一日〇、三〇麻）及夕食（一日〇、五〇麻）……	24 MK、
午食……	35
被服調製……	35
洗濯……	5
烟草……	7.50
雑費……	9.35
家賃……	25
従卒手當……	3
集會所等の費用……	1.40
預備金……	10
	179.25

日露戦軍費

明治三十七八年役の我軍費一、三五六、〇〇〇、〇〇〇圓、敵国の支出総額一、六七七、〇〇〇、〇〇〇婁布留なりき。

馬糧

東京馬糧の比較左の如し。

	燕麦	芻	藁(吉瓦)	温量(Cal)
獨 騎兵	5.1	2.5	1.75	25927
乙 砲兵	5.5(麦)	2.5	1.75	27277
日本	米8.4	3.7	0.75	25425

遠乘

一日十五時間百二十吉米の進行は週日に亘ることを得べし。(騎兵の實驗)

黒面馬草

台灣山野に生ずる毒草なり。幹枝葉胡椒に似たり。高さ三四尺に及ぶ。生根三四十匁を濃煎して服すれば墮胎す。(公醫衣方正報)

統覺

高嶋平三郎氏のAPPERCEPTIONの譯語なりとぞ。

靴傷

靴傷は初の二十吉米に多しと關口通太郎云ふ。

サシミ

サシミは禮内則の肉腥細者為膾の腥细の音訛にして、蒙古語ソオスウミイ即牛腥细より出づとりふ説あり。

峠

一、山嶺峠又峰越、韓語峙 ridge pass 二、谷峠又谷越、韓語峴 valley pass 三、段峠 step pass の別あり。一ハ清水越、天城越、鳥居峠 二ハ中山越、関原 三ハ鈴鹿越の類なり。

鬪鑿

一作鬪族、南齊書五行志に出づ。俗に謂ふネツキなり。

知風草

かぜくさ Eragrostis ferruginea, Gramineae.

引首印

俗に謂ふ關防なり。

イモ

芋ハ万葉ニウモ後イモといふ。芋茵の音訛ならんといふものあり。

市と市と

市(フツ)ハ四畫沛、地名 肺、芾、蔽芾、米芾、等之ニ従ふ。市は五畫姉之ニ従ふ。柿は柹俗也の誤字。柹は木實なり。

樂

我邦古有三韓樂及呉伎樂。後唐樂及臨邑樂行。臨邑即占波。一曰瞻波。(Champa)今西貢(Saigon)附近之地。西貢之北。現有占波族。(Chames)臨邑僧佛徹。與仙那同至。天平八年(七三六)入南都。作千秋樂。別有臨邑八樂。一菩薩舞。二拔頭舞。沙陀調。荅舞。還(ゲン)城樂。三迦陵頻。壹越(イチコツ)調。荅舞。胡蝶舞。四倍(ベイ)臚破陣樂。平調。本舞。太平樂。五按摩。壹越調。荅舞。二舞。

六萬秋楽。盤涉調。荅舞。地久楽。七羅陵王入陣曲。
壹越調。荅舞。納蘇利。八胡飲酒楽。壹越調。荅舞。
林歌。就中一二三五印度楽也。

約束

祝儀二圓、玉一回五十銭（一本二十五銭六本若くは十二銭五厘十二本）箱屋祝儀三十銭（遠出五十銭）合計二圓八十銭。

挨拶

一回。

大一座

宴後妓に膳を出すことあり。

下髪

戒菴漫筆ニ云 倭国婦人不裹足 髪長散披在後

左衽

甲斐国酒折宮の傍ニ置かれたる東照翁の像は左衽なれど偽物なり

飲食好悪

（上）嗜好之部

薩摩芋　甘藷　馬鈴藷　青芋　南瓜　白瓜

胡瓜（ーー揉）　茄子（ーー漬）　大根　蕪菁　蓮根

三葉　笋　蕨　ぜんまい　赤小豆　大豆（煮豆）

干瓢　椎耳　麩　栗（橘飩）

白魚　海老（ーー天麩羅）　蟹　蠑螺　鮑（酸貝、水貝）

蛤　あさり　赤貝　貝のはしら　蜆　鯛

いらめ　かれい　蒲鉾　焼魚　煮魚　焼卵、煮卵

菓實（自然柿）廿個位　江梅焼　落厂

（下）厭悪之部

葱　胡瓜（ーー漬）　茄子（煮ーー）　生姜　葵

胡椒　山椒　蕃椒　梅干　梅漬類　豆腐

いわし　さんま　生魚　天麩羅（海老の外）　鰻（蒲焼）

卵（生）

鳥肉　牛肉　牛乳　洋食　海鼠　牡蠣

西洋菓子

樽柿

俳句抄

落かたの月大いなる野分かな　波空

走馬灯画のよきはよく廻る哉　井蘭

船路より帰りつきたる玄猪哉　星霄

冬の川水の乢猫のまゝにおぢ　芦江

駄馬の鼻北川の吹き歪めけり　白水

高臺に九月九日をしろしめす　烏堂

彭々と人市に立つのちの月　秋皎

壷々に匂ふ諸味や燕去る　けい水

門しめていつち行けん小春人　得川

蝕める摩詰が像に献茶哉　翠濤

甲矢乙矢水鳥白う立に鳧　黒頭巾

心ゆく芭蕉の雨やはたゝ神　夏袖

蛙わいて名所の清水なかり鳧　吟月

風あつき磯の家並や桐の花　蝶衣

少女子や巻いてはたなす青簾　菫菜

夕立や外に雨なき園たひら　柑子

瀟湘の水辺に蛙や雲のみね　子蘭

十哲は画像に活きてけさの秋　柿園

送火や人も通らぬ門の外　同

矢のをれが土となる野や桔梗さく　修竹居

語彙

恕饒。無倚靠。痛傷噎倒。打熬。（耐忍。）險些。（アブナク〇最少シニテ。）情願。

不停當。（不妥也。）欺軟怕硬。（俗吏。）支吾。（彌縫。）中閙無甚蹺蹊。（仔細。）甕中捉

鼈。手到拿來。聒噪。佈擺些東西。躱避。潜地。（コッソリ。）知端的。

知實。撇下。（棄却。）擾累。（厄介。）撮空說謊。（欺瞞。）藏頭露尾。（秘而不悉言。）

各人自掃門前雪。莫管他家瓦上霜。（隔意也。）虛下潜聽。（為去而留聽。）

擔閣。（棄却。）酒逢知己千鍾少。話不投機半句多。却將言語來

衝撞叔。　早被雎破。　利歯伶牙。口𪗋。　打破砂鍋。打閙名　乱
掩胡遮。立テ。カクシ　回心轉意。　招災攬禍。　牢騷不平。　不可捽
得。　耳聴目採。心度口酬。他人旁看。五色眩瞀。而公子兼綜
兼理。　洋洋若平常。　諳錬典故。　湔洗悪名。　拳脚眉眼。各
肖其人。　句白問荅。　刺心洞骨。　穹得朗々栖々。　弄丸承
蜩。令人無可捉摸。　步襲序次。　規矱特創。無古無今。
琵琶記用金釵十二行。(Anachronismus)　揷科打諢。　利絶名

傘。　七推八阻。　両下擔誤。アブハチトラズ。　敦倫重誼。　脚色。
生。　少年。
旦。　少女。
淨。　老男女。
丑。　悪男女。
末。　善男女。
貼。　少女。
外。　老人。
皇然動容。躍然稱快。　收華斂采。　油然感動。喟然嘆興。

添設點染。 正主陪客。 正描旁襯。 順補倒插。
描頭畫角。色々入妙。 摶兒摶象。倶用全力。 手忙足乱。
遠山無皺。遠水無波。唱演。 彫琢堆砌。 面目声欬。
洋々纚々。立言也。 逼攏漾開。 使看者眼光霍々不定。
師子弄球。猫狸戯亂。 不便抓住噙住。有無數往來撲跌。
無聊侘傺。 委宅干榮。 去醨還醇。 潑散。忘年會。
台風旗。(Windfahne. 李鷹談記。) 微綸芳餌。釣。 嘗一哈
水。如甘苦知。 給之詬之。欺罵。 杜園貢諛。偽慷慨。

藐熟顔面。偽敦朴。 兵不解医。盛矢器。国語。 宥過無大。刑故無小。
宥過失。無宥其大。 刑故意無刑其小。 姑息。婦児也。尸子語 撙甲。俗作擺甲。 影書。又響音
揖。摹写。 瞶揖粲 通指以目。以手以顧。 黜落擯棄。 竿籠。試時密挙。
拳々於某。 悵惋。為人所先也。 籌踞轄鞬。 欠伸欹側。
滲倒無属叙之情。貴人不敢族。 欵曲。 伶俜風塵。 匡謬繩愆
寛假誘進 条以備参核。 以資参證。 拔短。 磕頭。
厨竈針線。 歴錬。 蹊蹺古怪事。アチガヒ 埋怨。コボス 不

須掛慮。心配スル。 青頭。烏亀。王八。(Hahnrei.)

官人。 婦呼夫。

娘子。 夫呼婦。

孩兒。 親呼子。

爹々。 子呼父。

媽々。 子呼母。

公々。 少呼老。男子。

婆々。 同。女子。

沐甚風。櫛疾雨。 連犿諔詭。宛轉奇幻。 小夫之知。不離苞苴

竿牘。 敝精神乎蹇淺。 殆哉圾乎。 有緒言而去。未盡之言。 搖唇鼓舌。 傲倖。 面譽背毀。 魯國之巧偽人孔丘。

(Heuchler) 多辭繆説。 僨然。衰也。 輇才諷説之徒。不知經世。

稷々。髮亂。 陸沈。大隱。 運斤成風。 鞅掌。委頓失容。 尊賢授能。

簡髮而櫛。數米而炊。竊々乎。又何足以濟世哉。 盡然。知也。

挈然。仁也。 洒然異之。 蹵然正坐。 思慮營々。 規々然。喪

父母。揭竿而求諸海。 惘々乎無由入。マヨヘリ。 津々乎猶有惡。不潔。

超軼絶塵。馬。 倫然。無所累也。 侗然。無所知。 氷解凍釋。
人見其跡。猶之魁然。 聞人足音跫然而喜。 剷草洗
苔。 齒撃股栗。 觳觫之態可掬。 吃々匿笑。 索價。(mai-
nen.) 典質。(verpfänden.) 控諸官。(anklagen.) 斧資
已罄。 有彈指声。(Klopfen.) 駔儈。數者。 含糊取利。ゴマカス。
取宿逋。古キ貸ヲトルナリ。 鳩工庀材。 奩飾。嫁時ニ言フ。 詢其來由。
裝束將出。支度。 點竄。(Correctur.) 披堅執鋭。衝鋒陷
鏑。 餉用未集。 敢妄言虐笑我。 紆青拖紫。

嘐々然自鳴異。 關傳人口。 貸於誰。(leihen.) 署券。
追呼急。催促也。 訟師。代言人。 輾轉固維。覓得一策。 緬述
顛末。 淚眦熒々。 甄拔人才。 髮指眉軒。神情爽々。
淹貫經籍。 博通墳典。 自媿弇陋。 讎勘之。脫誤多。
承訛襲謬。 卿蹀躞哉。何不買婢供設。 祗些小口角耳。
少失怙恃。 爭委禽。 佻達寡信。 問其外出。 縹帙
牙籤。 客歘闖而至。 消遣世慮。陶冶閑情。 琢抉微奧。
衣布茹素。 筆耕針耨。 兢々然以道統自任。 講說齋

々不止。　倀々无所之。　微明堪辨認。　傑構鴻篇。
偶雨之作。不足辱齒頰。　騶從煊赫。　細語喁々。　以衣付
質庫中索金。　民為周鍊。以扞衞。　助順剿逆。　禦灾捍患。
殍哭殯殮。　履斂瞳決。懸鶉百結。　抗節捐軀。志操皦然。
惴々心悸。　色戰毛戴。　控弦發矢。　吹角嗚々。　將物付
還。　人面桃花之嘆。綠葉之嘆。　締絲蘿。賤鸞盟。　步動雲袿。
香飄霞轂。　敲門甚急。　魚沉厂杳。　傑出輩行。　低鬟
雲擁。媚眼星流。　冉々而滅。　研黛簪花。染脂調粉。

行步娉婷。腰支纖亞。　特具不腆。敬迓清輝。　肴核雜陳。
履舄交錯。　恭坐莊容。　舉於口。筆於書。　樂宣湮鬱。
政寧息勸。　夏葛冬裘。　責己重周。待人輕約。　恐々然
而懼之。　責人詳。待己廉。　特立獨行。　昭乎明。峯乎高。
紛々籍々。　説。　爬羅剔抉。刮垢磨光。　兀々窮年。
觝排攘斥。　補苴罅漏。張皇幽眇。　旁搜遠紹。　沉浸
醲郁。含英咀華。　渾々無涯。　佶屈聱牙。　閎中肆外。

跋前躓後。　卓犖為傑。　擧措施為。　轉相倣效。
狂妄贛愚。　感激懇悃。　兢々業々。　恐物不得所。　濤瀧
壯猛。　孽臣奸隷。　蠢居甚處。　負罪嬰釁。　戚々嗟々。
日与死迫。　窮思畢精。　心力所迨及。　裨補消埃。　奨
待踰量。　孤稚羸弱。　章々明。　孜々矻々。　死而已。　蔽遮
汩遏。　顏色不乱。　陽々如平常。　族親鮮少。　無扳聯之勢。
宿資蓄貨。　奔走乘機。　抵巇要權。　怨懟奇怪之辭。　讒佞
譸張之說。　遑々乎無所歸。　恤々乎不得食。　涕泗交頤。

獲狄與居。　魁閎通達之士。　洋々動心。　峨々纓冠。
于々而來。　品彙匹儔。　俛首帖耳。　搖尾而乞憐。　磬磨
事業。　奮發文章。　獨自憐悼。　髮禿齒豁。　干黷尊
嚴。伏增惶恐。　幽閨婦女。草野小人。皆飽聞而厭道之。
年穀熟衍。　符貺委至。　強梁之凶。　銷鑠縮栗。　迎風
委伏。　恵然來。　踊躍悚企。　審察遠思。　赫然驚人。位。
惝悚兼至。　未審眠食何似。伏惟万福。　昭布森列。　分離
乖隔。　綿々延々。寖以微滅。危。　辨難糾紛。幾如騷訟。

拘牽扞格。不能相通。 衆言淆乱。 心嚮往。 以意逆志。迎
鎔鑄衆説。 演闡經義。 參稽。 洞周窔奥。 衡量
得失。鏡別異同。 纏綿固結。 畀。音秘。與也。

牛乳

孝德天皇の時 福常牛乳を献ず。福常は呉の王
照淵の孫、智聡の子なり。倭薬使主の名を賜ふ

瓦偶

上野国那波郡波志江村の相山、武蔵国栗橋の邊等よ
り出でし瓦偶、頸に御統の玉、腕に手玉あり。組小刀、剣
を佩ぶ。(桂林漫録)

浴

韓詩外傳云。夏不數浴。非愛水也。

蝦夷

家は草の類にてかこめり。前後に窓あり。

米とウバイロオ（臭き草の根）とに魚を添へて食ふ。飯器（イタンキ）汁器（ヌマボ）の垢膩漆のぬし。

木皮と衣る。左袵なり。

肉毒

馬の肝と鞍下の肉とには毒あり。（参考小栗實記）

義倉

宋太祖乾徳元年。令諸州。於所屬縣。各置義倉。田。自今官所收税一斗。貯以備凶歉給貸。

丹前

松平丹後守の第の前に町屋風呂あり。遊女を置く。歌舞伎者どものそこに通ふを、丹前へかかるとい

ふ。後はてなるを丹前といふ。（八十翁昔物語）

髪の名

横違、両輪、さつかうがひ、兵庫、勝山、三好、片笄、なーげり、勝山崩、紫若、忍返、奴嶋田、本銀杏、束銀杏、籠嶋田、立兵庫、横兵庫、かぶせ両輪、抜出し両輪、かせ、向うかせ、金猩々。（街の噂）

帯の結びやう

嶋原、お出、吉彌、たらり、文庫矢、千鳥、輪違、丸山、立狭、横狭。（街の噂）

兵房

英和字書 Baracks の譯。

むかごにんじん

むかごにんじん、又やまぜり、又すゞにんじん、又みつばにんじん、漢名詳ならず。人参にまがふ。

汗精

韓人梅毒、儺麻質斯などを患ふるもの、土室中に於て葉を焚きて發汗す。これを汗精といふ。

女紅

漢書哀帝紀。女紅之物。如淳曰。紅亦工也。

温泉

水鏡元正天皇の條に、靈亀三年九月帝美濃國ふはの山のいで湯に行幸ありき。

長唄

吉住小三郎、小三藏の吉原雀を西園寺侯の宴にて弾きつ。三味線は杵屋六四郎なりき。

香盒

貝の形したる香盒

開く方を前に向けまし、貝を開く如く開くべし。

字典

渡辺温康熙字典の誤を正したる書あり。

足なり

足あかといふ詞今も薩摩などにあり。

卍字

Hakenkreuz, Swastika 東欧土器にあり。

流下直高

朱竹垞云。娶妾而納采。儷皮純帛可也。至于買妾。有費百金者。若欲落營妓之籍。非千金不可。其流愈下。其直愈高。

ひらく

花開くと云開くの下二段なることを知らぬ人多し。

凍梨

名義考。老人面皮無澤。謂之凍梨。

厲

史記。漆身為厲。索隠曰。厲癩也。

親族相婚

蘆芽草紙巻三、小碓尊は姨両道入姫命を妃とし、敏達天皇は妹豊御食炊屋姫を后とす。後推古天皇となられ給ふ。天武帝は姪高天原廣

野娘と后とす。後持統天皇とならせ給ふ。
萬花下巻、古來親子の婚なし。姑姪は忌まず。
同母兄弟は忌みて異母兄弟は忌まず。神代にて
は、磐筒男神、磐筒女神の兄弟婚して、經津主神
を生ませ給ふ。

腋臭

秋雨随筆に腋氣、狐騷臭、慍羝と云ひ、西青
散記に狐臊と云ふ。

以水醒面

五代史唐紀。朱全忠饗克用於上源驛。夜酒罷。
克用醉卧。伏兵發。火起。侍者郭景銖滅燭匿
克用牀下。以水醒面。而告以難。

雨果

夷堅志辛集下に、林子長蒼溪に居りしとき、

四畔皂角莢なきに、屋瓦上に莢子を雨らす。歷碌としたる聲あり。菜畦に植ゑしに生えたりとぞ。

壽考

磐城國相馬郡中村の野馬雷助は、明治十三年百歳なりき。

磐城國田村郡堀越村の桑原熊三郎は、明治十七八年の頃殆ど七十歳なりき。

糞

博物志。三尺以上為糞、三尺以下為地。

河豚

京千日寺に河豚に中りて死にし人の墓石の下に石河豚あり。（羈旅漫録）

揩

夷堅志。赴浴。令一子揩背。

虎子

夷堅志庚集下。統制潘璋之妾。每出必以虎子自隨。○

西京雜記。漢朝以玉為虎子。以為便器。

回向院、小塚原

回向院は明暦三年正月十八日十九日の火災に死せし人を埋め、それより刑死をそこに埋む。

加賀爪某回向院の地漸く狭きを慮りて建言し、寛文七年より刑死を小塚原に送る。橋本左内、頼三樹三郎、吉田寅次郎、有村治左衛門等皆此に埋められしき。

左成六年。有沈溺重膇之疾。（脚氣）

夷堅志庚集下。重膇疾。

葬事

夷堅志。祖塋。○舉尸火化。

衛生法意

明治十五年印刷、十六年發行の中金正衡著衛生

法意よ、当時の中央衛生会長細川潤次郎の序あり。
虎列拉猛於虎。而苛政更猛於虎矣。嗚呼是豈衛
生法之意也哉云云ゃ

衛生書

衛生汎論　チイゲル著　大井玄洞譯

衛生概論　柴田承桂

衛生新論　緒方惟準

衛生新論　福地復一

衛生新論　スロイス　稲坂諭吉

衛生学　片山国嘉

衛生要旨　猪原德太郎

衛生攬要　渡邊定等

簡明衛生論　エリスマン　丹波敬三

普通衛生学　丹波敬三等

普通衛生学　柴田承桂

普通生理衛生学　ボツク　後藤新平

カツトル氏生理養生論　カツトル　小林義直

健全論　松本駒次郎

健全学　ゼエムスメン　杉田撰玄

衛生輯要　竹田定直

衛生建国策　菅野虎太

公衆衛生論　サンデル　柴田承桂

公衆参考要旨　奥平浩

町村衛生問答　村松頑三

養生法　松本順

養生訓蒙　神戸文哉

新撰養生編　高荣致等

新編養生訓　鈴木玄龍

婦人衛生論　ブウル　大井鎌吉

学校衛生論　松山誠二

養生浅説　マルチンタル　小林義直
衛生小話　江馬春熙
防疫要論　小川三之助
防疫心携　林茂香
衛生令纂　中澤安穏
衛生医事新説　林茂香

葬事

於人之国。其親戚死。朽之肉而棄之。然後埋其骨。乃為孝也。

義渠国。其親戚死。聚柴。積而焚之。勲之。即烟上。謂之登遐。

石綿

西域献火浣布。汙則焼之。則潔。

冒霧

王莽、張衡、馬均。昔冒重霧行。一人無恙。一人病。一人死。問其故。無恙人曰。我飲酒。病者食。死者空腹。

獄制

穂積陳重の用語 ○拘留 未決囚 自由刑 既決囚 ○懲罰、教誨
○方形獄、圓形獄、星形獄 ○生命刑、身体刑、財産刑、栄誉刑、自由刑 ○混同法、分類法、分房法、沈黙法、拝臣法、階級法

甘露

蜚蠊、あぶらむしの原なる。

玉川上水

Askinson の分析学藝志林巻一に出でたり。

玉川上水	麹町五丁目	虎門外琴平町番地	芝濱松町一番地	築地小田原町一番地	本八丁堀松屋町三丁目二番地	霊岸嶋塩町四番地
固形物	6.05	87.5	69.5	160.5	106.5	261.5
クロオル	6.5	11.5	7.0	23.0	10.5	43.5
酸化窒素	0.885	1.185	0.954	0.954	0.567	1.911

神田上水

	小石川樋口	猿楽町三丁目三番地	本町三丁目二番地	西河岸町十七番地	南伝馬町三丁目十三番地	小網町三十目十二番地
固形物	9.8	110	87	194.5	203.5	250
クロール	7.9	9.5	15.5	25.5	30.5	33.5
硝化窒素	0.81	1.07	0.98	2.44	1.09	2.72

同上

	坂本町十一番地	本所町三丁目十番地
固形物	240.5	287.5
クロール	42.0	49.5
硝化窒素	1.65	1.17

井水

	深さ	固形物	クロール	硝化窒素
小石川金富町二十二番地	24'	247.5	4.1	4.755
一ツ橋町四十九番地	30'	435	83.0	7.204
西江梅町十三番地	45'	757	126.7	33.356
大学医院	38'	217.5	37.0	1.62
陸軍海岸町十五番地	34'	411.5	74.5	6.245

小梅村六十四番地	3'	193.5	31.5	1,208
本所小泉町三十五番地	9'	307.5	37.5	1,026
深川伊勢崎町三十三番地	10'6"	595.5	220.5	1,166

鉄居

續日本史。本多忠勝生子。鉄居。忌之。徳川家康曰聞甲信名将山縣昌景亦鉄居。何須忌乎。

二女同死

下野国足利雲輪小路の渡邊仲右衛門の二女すゑ、十五年、梁田宿上絵屋米三郎の長女はな、十八年と共に機屋に雇はれ居しが、明治二十二年二月十一日、帯にて身を結び附け、抱き合ひて渡良瀬川に投ず。

二女同死

芝濱松町一丁目寄席小金井三之助養女花、十五年、新網町南町井口吉藏の女、女髪結若、二十一年の二人、明治二十一年五月二十二日、共ニ角田川ニ入水ス

一産三子

漢紀。魏州内黄民武進妻一産三男子。
唐紀。陜州硤石縣民高存妻一産三男子。

肉脱出

夷堅志壬集下。皮裂肉出云云。筋脈數寸於外。不可入。

色盲

相錯るべき色左の如し。

Es wuerde verwechseln	*Ein Rothblinder* mit	*Ein Greublinder* mit	*Ein Rothgruenblinder* mit	*Ein Greunblaublinder* mit
Purpur.	Blau, Violett.	Grau, Gruen.	Gruenblau, Blau, roth.	Roth, Orange, Violett.
Gruen.	Orange, Gelb, Gelbgruen.	Grau, Purpur.	Grau, Roth.	Gruengelb, Gruenblau.
Roth.	Grau, Blaugruen	Orange, Gelb, Gelbgruen (braun)	Grau, Gruen.	Orange, Purpur, Violett.
Blau.	Violett, Purpur.	Gruenblau, Violett.	Gruenblau, Violett, Purpur.	Grau, Gelb.

異産

夷堅志辛集上。建康犀皮塘杜屠妻。以淳熙五年懐孕數月。於左脇下生一癤。積日漸大。不痒不痛。凡十月而潰。生一男。皮肉即合。腹孕即消。

孌童

侯鯖新録四。戒孫宰童詩。

眼光落地

夷堅志甲集下。余紹祖感疾。正晝呻焆。ーノ不見有光。

双目朦朧。餓頃而亭。將亡時。精神消散。所謂眼光落地
者此歟。

志堅志甲集下。南城高氏産子。漬諸水盆内。

溺赤子

一産五子

本事詩。開元中。幽州衙將姓張者妻孔氏生五子。

廣嶋吉田町井川清作妻ゆ卯年二十七、明治十三年五月十
三日及十四日ニ男二女三ヲ産む。

外套

巻きて鞍ニ着くることは前ヲ左ニする

前と後ろ

北陸殿血ニ塗れたる首は湯の中ニ荏ノ油ヲ少シ入れて洗ひと
採擇す

癨

暑天腐雑記下十六丁。

心顫

志堅志甲集下。心顫。

假死

夷堅志巳集下。崇安人張四獄中死。藁薦捲束。懸於梁上。明日復生。

物憑

夷堅志癸集上。為物憑附。又曰為祟所憑據。

女医人

王建宮詞。白日臥多嬌似病。隔簾教喚女医人。

病とつくろふ

水鏡天武天皇の條、病とつくろひ給ふとあり。

身長と頭高と

	身長	頭高	身長は頭高の何倍なりや
伊部彝	一六五、九	二三、〇五	七、二
吉林太郎	一六一、二	二二、八	七、一
賀古鶴所	一六四、七	二五	六、五九
岡田国太郎	一五三、五	二三、三	六、五九
小池正直	一五八、八五	二二、七五	六、九八
有馬某	一六二、八	二二、八	七、〇一四

病家

高青邱贈醫師徐孚甫詩。病家幾度來相覓。

倍醫多誤

陸劒南訪醫詩。倍醫因多誤。

病得医

大慧禪師普説。如病得醫。如暗得灯。

勿為庸医

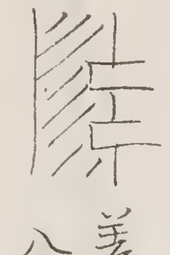
廬陵澹庵薬笥銘。寧為庸相。勿為庸医。秕政易見。拙技医知。

根積

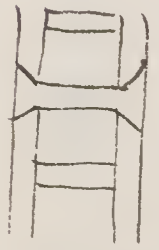
煉瓦壁の下に幅廣く煉瓦を積むをいふ。

差入、蟻掛

図のごとし。



差入



蟻掛（俗、蟻尾）

天井

簀子天井は紙を張りて煤を承く。其中にて士以下は板天井を許されざりき。舗板も禁ぜられたりき。

大引

下の梁、土間の處なるを大引といふ。

迫持

木の迫持はまぐさ又かまちといふ。

漁談

土佐の方言に漁父をやんざといふ。

節納屋（ふしなや）とは生鰹を割きて節にする所なり。

投網に尾張打、二つ取り、肥後打、土佐打あり。

手操網、竿縄。

烏賊形とは章魚を捕る具なり。

粒焼炭

夷堅志ニ紅烓炭あり。たきおとしなるべし。

十六神王呪

那謨喝囉怛那 哆囉夜耶（ナモアラタンナ タラヤヤ）

畑土粘土

畑土は粘土に對していふ。

たたき、漆喰

叩、たたき又へなたたき。Beton に似たり。漆喰を膏灰ともいふ

桁の撓み

全長の四百八十分の一を饒す。

水硝子

塩酸石灰と併用す。
天王寺土
Cément ニ類す。

水鑑聖智武備鈔

写本三冊十七巻あり。甲州流の兵法なり。
兵粮渡法。兵陣は三日宛の用意を渡す。一夜陣は日ごとに渡す
兵粮、馬の飼料。此分量一人ニ白米一升味噌五十目、馬一疋飼葉一貫目豆二升米一升糠四升塩一合也。
陣法食三度一度ニ用意すべし。翌日の用意三度分を今

日用意すべしとの事なり。
兵粮を焚。食は三度分を一度に焚、是を調て前後整
置たるを可食。昼夜ハ二番鐘にて食べ、(一番鐘起、二番
鐘食、三番鐘物具、貝押出)晝又淵にて第食て、拗習合
調て後に食之と、服部先生傳へられたり。是食三度一度
に用意の事を混じて誤まり。吉川先生云、寒天は以て用ゆべし。
暑に當て何で如斯して食ふに足ん。都て陣中の事ハ、如斯
に手を盡し心を運して怠を禁ずる都合なり。可辨云々。

委曲に傳を得べし。
水汲せ様の法。是又先陣より次第に汲する也。(是又とは前文
小屋立の竹木薪取方をいふ)尤汲に出る口汲て入る口と往別と
す。物頭小口にて改む。水汲場所ハ物頭組を連て弓鉄砲二
組警固す。但使番両人附添出づ。又川水を汲せ用ゆる時ハ川
下より水上へ次第に汲せ登る也。是濁を厭ふ故也。
陣場奉行之心得。水の手并薪心得有べし。水ハ日用要旨也。併
て水を汲取場所に労せざる地に陣所を見立べし。薪事是

而なくて不叶也。然バ陣中薪奉行と定らる。推して知るべし。依之薪を求る安きを計て陣場を見立べしとの教也。

狩馬晴雨共ニ桐油を用。

小屋割の定。侍小屋梁間二間ニ戸間一間、陣筵四枚布、ニ四人。卒右同断の布也。小者右同断の布也。但卒分の者ハ右の布ニ一人宛也。

粮米秣之定。一人ニ白米一升味噌五十目。馬一疋ニ飼葉一貫目、豆二升、米一升、糠四升、塩一合。薪ハ寸周り長さ二尺一人三本宛、馬ニ二人宛の積を以て費用意の事。

行軍長途の心得有べし。定法ハ十里なれども人數の多少ニ依て里數を減ド又ハ増事ある。

赤き筋眼を貫く

水鏡、聖徳太子崇峻天皇の赤き條目を貫くを見て傷害の相と申しる。

瘡

水鏡、敏達天皇十四年し、御門も守屋も忽ニかさを煩ひ、天下

まかさかこりて命を失ふその数を知らず。

眇一目

梁元皇帝一目眇。

在胎十二月

水鏡、聖德太子と敏達天皇四年正月一日に生れ給ふ。
厩の前にて劇に生れさせ給しかり。十二月にて生らせ給ひし。

枝指

春江詩話。唐伯虎名寅。字子畏。手有枝指。

醫事二三

左哀元年。伍員曰。樹德莫如滋。去疾莫如盡。
子西曰。闔廬在国。天有菑癘。親巡孤寡。而共其乏困。
在軍。熟食者分而後敢食。
哀二年。繁羽御趙羅。宋勇為右。羅無勇。麇之。吏詰
之。御對曰。痁作而伏。
衛大子禱曰。無絶筋。無折骨。無面傷。
（哀五年。）景公曰。二三子間於憂虞。則有疾疢。

哀六年。昭王曰。除心腹之疾。而寘諸股肱。何益
哀十一年。子胥曰。使醫除疾。而曰必遺類焉者。未之有
也。
哀十二年。子木曰。長木之斃。無不標也。國狗之瘈。無
不噬也。

毒草

かはらうつぎ又まじき Coriaria japonica A. Gray
多く鬼怒川の邊ニ生ず。毒あり。
よどがはつゝじ又はつゝじ又やえつゝじ甲斐国南都留郡
寶村の小児花を食ひて病む。

飯匙倩

飯匙倩、はぶハ最多く大隅国大嶋郡大嶋徳ノ嶋の二
嶋ニ産す。飯匙は頭の形ニよりて名づく。春の初ニ出
でゝ仲冬ニ蟄す。毒あり。

菟

筑後國竹野郡菅原村の鹿毛忠作ぐみの皮と並ドて飲み死す。

日ばかり、日しらず

日ばかり、日限る長さ二尺に過ぎず。黄にして細點あり。日しらず、日不知ハ黒くしてかしら稲を刈る頃、稲葉の上を走る。並に毒あり。

本艸綱目云。熇尾蛇又竹根蛇。與竹同色。尾有黒點。

箭毒

あいぬの鏃は鹿脛なり。其毒ハ双菊鳥菊なりと、石橋俊勝、字生文吉云へり。

蠱

蛇、百足、蛙を一器に盛るに、一宿他の二虫を食して獨り生存す。これを酒に和して飲ましむれバ死す。秦州、廣州に行はる。

斷膓艸

景天齋雜記地一下。斷膓艸毒。

河豚

昙天齋雜記上二丁。河豚毒。

鴉片戒

米人培端漢文の著なり。

鴉片烟賦

倭鰆新録巻四。

追儺

水鏡、天武天皇の條、慶雲三年追儺始まる。

尼僧治病

水鏡、齊明天皇二年百濟より來し尼法明ヲ鎌足の病と祈らしめ給ふ。

新羅の醫

水鏡、允恭天皇三年正月新羅の医を徵さる。八月參りて帝の病をつくろふ。